

公益社団法人 有機合成化学協会

## 平成 28 年度通常総会(第 79 回)資料

日時 平成 28 年 2 月 18 日(木曜日) 10:30~11:30

場所 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1  
如水会館 2 階 オリオンルーム



公益社団法人 有機合成化学協会

平成 28 年 2 月 18 日

# 目次

			頁
【監査報告】			1
【平成 27 年度の総括と平成 28 年度の目標】			2
【決議事項】			
第 1 号議案	平成 27 年度決算報告承認の件	定款第 39 条の 1 および 2	3
第 2 号議案	平成 28 年度役員選任の件	定款第 23 条	12
第 3 号議案	定款変更の件	定款第 41 条	13
第 4 号議案	名誉会員委嘱の件	定款第 5 条の 5	13
第 5 号議案	常勤役員の報酬に関わる件	定款第 28 条	14
【報告事項】			
報告 1	平成 27 年度事業報告	定款第 39 条の 1 および 2	15
	1. 平成 27 年度通常総会報告		15
	2. 会員動向報告		15
	3. 事業報告(公 1 :編集出版事業)		16
	4. 事業報告(公 2:研究会事業)		16
	5. 事業報告(公 3:表彰事業)		25
	6. 事業報告(他 1:共益事業)		27
報告 2	平成 28 年度事業計画	定款第 38 条の 2	30
報告 3	平成 28 年度収支予算	定款第 38 条の 2	33
報告 4	永年会員昇格者	定款第 5 条の 5	35
【参考資料】(付表 1)	平成 27 年度一般正味財産の構成表		36

## 【監査報告】

### 監査報告書

私たち監事は、平成27年1月1日から平成27年12月31日までの事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

#### 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

#### 2 監査意見

##### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成28年1月25日

公益社団法人有機合成化学協会

監事 石原 雄二

石原 雄二 

公益社団法人有機合成化学協会

監事 小原 義夫

小原 義夫 

公益社団法人有機合成化学協会

監事 小林 進

小林 進 

以上

## 【平成 27 年度の総括と平成 28 年度の目標】

本会は編集・出版、研究会、表彰事業を行っている。平成 27 年度における各事業の概要や会の管理・運営の取り組みと平成 28 年度の目標について説明する。

### 編集・出版事業

有機合成化学協会誌は予定通り 12 号を刊行した。5 月特集号のテーマは「フローケミストリー」とし、フラスコでは実現できない有機合成を目指した反応開発からフロー反応器の設計にわたる最近の進歩を 12 編の総合論文に濃縮した。また単行本としては「医薬品の合成戦略」と「有機合成実験法ハンドブック第 2 版」の 2 冊を発行した。

収支面では、昨年度の協会誌外販価格の改正で前年度比約 200 万円の増収が実現できた。また原稿料の一部廃止を実施した結果、約 70 万円の費用が削減できた。

### 研究会事業

本会では本部／支部主催で多数の研究会を開催し、その約 6～7 割が支部主催事業である。多くのイベントは長い歴史の中で育まれているが、その利点を維持・発展させつつ、時代のニーズに合わせた内容、開催形式への衣替えも検討している。本年度は本部主催の有機合成シンポジウムに関して以下を検討した。

このシンポジウム参加者の殆どは発表者であり、聴講目的の参加者が少ない。聴講者の増強、殊に教育的な観点から将来を担う学生の参加を促すために、28 年度より会員・会員外に関わらず低廉な「聴講参加登録料」を設定する。

現在、本シンポジウムは東京近郊での開催となっているが、地方からの参加者も多い。希望者の中には旅費等の制約から参加が困難となることも指摘されており、東京近郊に比べて大型シンポジウムの開催機会が少ない地方では、本シンポジウムの地元開催が期待されている。これらの背景の下、支部長懇談会と事業委員会では地方開催を検討し、課題はあるが、支部で早い時期に開催する計画が進められている。

支部では地域ニーズに合わせたシンポジウムを中心として運営しており、地方で活躍する若い研究者や学生の研鑽と情報交換の貴重な場となっている。特に 2 泊 3 日の有機合成化学セミナーでは、海外からの講師を含む 250～300 名の学生や若手企業研究者らが集い、学術情報の習得のみならず、他社の仲間づくりや産官学の交流ができる貴重な機会を提供している。27 年度(関東支部主催)はノーベル賞受賞発表直前に大村智先生をお招きし、ご講演いただいた。

### 表彰事業

27 年度の有機合成化学奨励賞は応募者が倍増するなど、これまでも増して若手研究者の登竜門として重要視されている。Mukaiyama Award は第 2 期表彰期間の初年度であった。有機合成化学特別賞、協会賞、第一三共賞、日産化学賞、高砂香料国際賞「野依賞」、Lectureship Award、研究企画賞にも各賞に相応しい受賞者が決まり、総数 42 名(件)の研究者が表彰・顕彰された。

### 情報発信

ホームページで講習会やシンポジウムの開催報告(後記)の充実を図っている。事業委員の協力を得て、

各イベント終了後に、会場の雰囲気や研究発表・講演のアウトラインなどを記載しており、今後参加を検討している者にとって有用な情報となっている。

昨年度から開始したメールニュースの配信も好評で、配信数も安定化している。

### 相互交流

各種懇談会として会員間の情報交流の場を広く提供している。何れも大変好評で、定員を超える参加希望がある。産学両界から招聘したトップクラスの講師による基調講演と賀詞交換で相互交流を図る新春フォーラム(本部・関東支部共催)は第 13 回目の開催となった。

企業への就職を希望する学生たちにとって、会社やその社員の活動を学ぶ場は限られている。企業の若手有機合成研究者と学生の第 2 回目の交流会を前年度に引き続き開催した。

### 財務環境と法人運営

● 収入面では以下が特記される。法人会員会費は 26 年度の改正によって前年度比 400 万円の増収となったが、個人会員会費は会員の退会による 50～100 万円／年の減収が常態化している。また、事業収入では、27 年度の協会誌販売価格改正により、200 万円の増収を達成した。

● 支出面では消費増税に加え、景気回復による人件費の増加が今後の課題である。

● 総務および会員担当理事の役務を「会長特命担当」として統合し、27 年度は会員サービス向上を念頭とした新規事業の創出を模索した。その中から、共益事業として法人会員の技術課題に個人会員がアドバイザーとして協力する「技術アドバイス事業」を実施することとなり、現在、行政庁への事業認定申請を行っている。28 年度も更なる会員サービスの向上を目指す事業を企画し、加えて本会の表彰制度の改革についても議論する。

### 新年度に向けて

平成 24～26 年度には本会運営経費の徹底的な合理化・経費節減を行い、平成 26～27 年度には法人会費と協会誌販売価格と、ほぼ全ての研究会参加費の見直しを終了した。その結果、改革着手前年度の赤字額 680 万円は収支均衡の状態にまで改善された。次の目標は、より魅力ある有機合成化学協会に衣替えすることによって会員の増強を図ることである。70 年の歴史の中で培われた本会の貴重な財産であるプラットフォームを活用し、本会ならではの事業の継続と改廃や新規事業の創出を、特命担当理事が中心となって果敢に進めてゆく。

## **【決議事項】**

第 1 号議案 平成 27 年度決算報告承認の件

定款 39 条に定めるところにより、p.4～11 に示す諸表のとおり平成 27 年度決算書類を承認する。

表 1・1 平成 27 年度正味財産増減計算書  
(平成27年1月1日から平成27年12月31日まで)

科 目	H27決算 A	H27予算 B	H26決算 C	A-B	A-C
【一般正味財産増減の部】					
1. 経常増減の部	A	B	C	D	E
経常収益	137,435,382	138,416,400	131,040,936	▲ 981,018	6,394,446
特定資産運用益					
特定資産受取利息	855,349	890,000	905,452	▲ 34,651	▲ 50,103
受取会費					
正会員費受取会費	72,780,255	73,468,650	73,956,641	▲ 688,395	▲ 1,176,386
事業収益	56,526,507	57,285,000	51,383,818	▲ 758,493	5,142,689
編集出版事業収益	15,895,823	15,014,000	15,179,887	881,823	715,936
研究会事業収益	36,280,684	38,221,000	32,153,931	▲ 1,940,316	4,126,753
表彰事業収益	4,350,000	4,050,000	4,050,000	300,000	300,000
受取寄付金	6,955,784	6,660,000	4,602,103	295,784	2,353,681
共催分担保	1,560,000	1,060,000	1,210,000	500,000	350,000
国際賞基金	3,721,151	4,000,000	3,392,103	▲ 278,849	329,048
Mukaiyama Award基金	1,674,633	1,600,000		74,633	1,674,633
雑収益	317,487	112,750	192,922	204,737	124,565
受取利息	11,200	12,750	10,791	▲ 1,550	409
雑収益	120,287	100,000	182,131	20,287	▲ 61,844
懇親会参加料収益	186,000			186,000	186,000
経常費用	134,624,490	141,437,595	132,744,491	▲ 6,813,105	1,879,999
事業費および管理費	134,624,490	141,437,595	132,744,491	▲ 6,813,105	1,879,999
編集出版事業費	27,438,083	30,138,215	31,074,458	▲ 2,700,132	▲ 3,636,375
研究会事業費	33,800,529	37,926,373	32,592,990	▲ 4,125,844	1,207,539
表彰事業費	10,417,837	11,175,857	9,247,019	▲ 758,020	1,170,818
給料手当	31,505,084	30,500,000	30,550,126	1,005,084	954,958
アルバイト費	2,394,999	2,400,000	2,404,501	▲ 5,001	▲ 9,502
退職給付費用	2,005,204	2,300,000	2,002,858	▲ 294,796	2,346
その他人件費（福利厚生費）	6,137,434	6,300,000	6,346,386	▲ 162,566	▲ 208,952
懇親会費	1,497,325			1,497,325	1,497,325
会議費	1,536,990	2,280,000	1,709,045	▲ 743,010	▲ 172,055
旅費交通費	3,449,405	3,535,000	3,496,176	▲ 85,595	▲ 46,771
通信費	1,301,393	1,541,000	1,450,195	▲ 239,607	▲ 148,802
什器備品費	167,022	550,000	0	▲ 382,978	167,022
事務用品・リース費	1,906,055	2,100,000	2,037,861	▲ 193,945	▲ 131,806
水道光熱費	290,235	286,650	292,041	3,585	▲ 1,806
事務所賃借料	4,367,520	4,410,000	4,337,190	▲ 42,480	30,330
諸謝金	1,095,077	1,200,000	1,080,000	▲ 104,923	15,077
雑費（税・手数料・会費・IT）	5,314,298	4,794,500	4,123,645	519,798	1,190,653
当期経常増減額	2,810,892	▲ 3,021,195	▲ 1,703,555	5,832,087	4,514,447
2. 経常外増減の部					
経常外収益	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
3. 一般正味財産増減額					
一般正味財産期首残高	295,181,948	295,181,948	296,885,503	0	▲ 1,703,555
一般正味財産期末残高	297,992,840	292,160,753	295,181,948	5,832,087	2,810,892
【指定正味財産増減の部】					
1. 高砂香料国際賞「野依賞」基金					
特定資産運用益計	1,210	1,000	1,724	210	▲ 514
特定資産受取利息	1,210	1,000	1,724	210	▲ 514
受取寄付金	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	▲ 3,721,151	▲ 4,000,000	▲ 3,392,103	278,849	▲ 329,048
当期指定正味財産増減額	▲ 3,719,941	▲ 3,999,000	▲ 3,390,379	279,059	▲ 329,562
指定正味財産期首残高	7,232,589	7,232,589	10,622,968	0	▲ 3,390,379
指定正味財産期末残高	3,512,648	3,233,589	7,232,589	279,059	▲ 3,719,941
2. Mukaiyama Award基金					
特定資産運用益計	617,334	601,000	10,466,347	16,334	▲ 9,849,013
特定資産受取利息	2,905	1,000	1,347	1,905	1,558
受取寄付金	614,429	600,000	10,465,000	14,429	▲ 9,850,571
一般正味財産への振替額	▲ 1,674,633	▲ 1,600,000	0	▲ 74,633	▲ 1,674,633
当期指定正味財産増減額	▲ 1,057,299	▲ 999,000	10,466,347	▲ 58,299	▲ 11,523,646
指定正味財産期首残高	14,712,347	14,712,347	4,246,000	0	10,466,347
指定正味財産期末残高	13,655,048	13,713,347	14,712,347	▲ 58,299	▲ 1,057,299
【正味財産】					
正味財産期末残高	315,160,536	309,107,689	317,126,884	6,052,847	▲ 1,966,348

表 1・1 の説明

科 目	27 年度予算との差額(万円)		26 年度決算との差額(万円)			
	収益	費用	収益	費用	増減の主因	
一般会計全体 *	+117	▲466	+639	+188		
受取会費収益	▲ 69		▲118		表 1・2 参照	
人件費(給与・福利厚生費)		+ 54		+ 74	景気回復の影響	
編 集 ・ 出 版	協会誌販売収益	+ 92	+205		外販価格の改正	
	協会誌広告料収益	▲ 10	▲115		表 1・2 参照	
	印刷製本費用		▲136		▲128	ページ数の減少
	用紙費用		▲ 35		▲102	価格交渉の成果
	原稿料支出		+ 34		▲ 70	原稿料の廃止
研 究 会	シンポジウム	+163	▲ 12	+510	+286	有化合セミナー
	講習会	▲100	▲ 86	▲ 69	▲ 92	参加登録料改正
	共催分担金	+50		+35		
Mukaiyama Award **	+7	+7	+167	+113	基金使用開始	
雑費(税・手数料)				+ 63	消費増税	

\* 27 年度予算では国際視察団派遣(収益・費用とも 215 万円)が含まれているが実施しなかったため、この表では予算の収益・費用から上記相当額 215 万円を控除した。

\*\* H26 までは賞金は別会計で、経費のみ一般会計支出(¥ 538,988)。H27 より全て Mukaiyama Award 基金。

**19A;29A** 行政庁の指導に従い、決算書においてシンポジウムのミキサー等を含む懇親会の参加料収益を「懇親会参加料収益」；同費用を「懇親会費用」として法人会計に計上した(ただし昨年度は 6 月以降の本部会計のみに適用)。昨年度の予算では各事業に併設した懇親会参加料収益および費用は公益事業(公 1～3)会計に算入されている。

表 1・2 会費収益と協会誌広告料収益の年次変化(単位千円)

科 目	H22	H23	H24	H25	H26	H27
会費収益	73,675	72,856	72,663	71,108	73,957	72,780
対 22 年度	0	▲819	▲1,012	▲2,567	282	▲895
広告料収益	13,778	13,014	12,020	11,781	11,049	9,899
対 22 年度	0	▲764	▲1,758	▲1,997	▲2,729	▲3,879
会費+広告料	87,453	85,870	84,683	<b>82,889</b>	85,006	<b>82,679</b>
対 22 年度	0	▲1,583	▲2,770	▲4,564	▲2,447	▲4,774

法人会費改正

会費収益と広告料収益は共に低下。平成 26 年度に法人会費を改正(法人会費として約 400 万円増収)したものの、平成 27 年度の会費収益と広告料収益合計は、平成 25 年度(会費改正前年度)の合計を下回っており、二者の構造的な収益性の低下は深刻な課題である。

表 1・3 平成 27 年度正味財産増減内訳表(1/2)

(平成27年1月1日から平成27年12月31日まで)

科 目	公益目的事業会計			その他事業	法人会計	合 計
	公1 編集・出版	公2 研究会	公3 表彰			
【一般正味財産増減の部】						
1. 経常増減の部	A	B	C	D	E	F
経常収益計	46,843,044	60,286,838	16,300,188	3,420,605	10,584,707	137,435,382
特定資産運用益	15,613	8,154	826,378	0	5,204	855,349
編集出版特定資産受取利息	15,613					
研究会特定資産受取利息		8,154				
表彰特定資産受取利息			826,378			
退職特定資産受取利息	0	0	0	0	5,204	
受取会費	30,931,608	22,853,000	7,278,026	1,455,605	10,262,016	72,780,255
個人会員費受取会費						39,688,255
法人会員費受取会費						30,190,000
団体会員費受取会費						160,000
学生会員費受取会費						2,742,000
事業収益	15,895,823	35,865,684	2,800,000	1,965,000		56,526,507
編集出版事業収益	15,895,823					15,895,823
誌会事業収益	4,698,458					4,698,458
広告事業収益	9,898,740					9,898,740
別冊事業収益	395,791					395,791
誌会関係雑収益	60,230					60,230
単行本印税収益	511,046					511,046
複写権使用料収益	331,558					331,558
研究会事業収益		35,865,684		415,000		36,280,684
シンポジウム事業収益		21,141,104				21,141,104
講習会事業収益		11,598,640				11,598,640
懇談会事業収益		3,125,940		415,000		3,540,940
見学会事業収益		0		0		0
表彰事業収益			2,800,000	1,550,000		4,350,000
企業冠賞事業収益			2,800,000			2,800,000
研究企画賞事業収益				1,550,000		1,550,000
その他表彰事業収益			0			0
寄付金収益		1,560,000	5,395,784			6,955,784
受取寄付金		1,560,000	5,395,784			6,955,784
雑収益		0			317,487	317,487
受取利息		0			11,200	11,200
雑収益		0			120,287	120,287
懇親会参加料収益					186,000	186,000
経常費用	47,012,259	57,530,242	16,121,788	3,380,065	10,580,136	134,624,490
事業費	47,012,259	57,530,242	16,121,788	3,380,065		124,044,354
編集出版事業費	27,438,083					27,438,083
印刷製本費	11,657,627					11,657,627
用紙費	4,060,314					4,060,314
原稿料・校正費	1,687,766					1,687,766
編集費	952,556					952,556
送達費	7,950,706					7,950,706
別冊作成費	286,686					286,686
電子出版費	842,428					842,428
研究会事業費		33,453,361		347,168		33,800,529
シンポジウム費		19,507,154				19,507,154
講習会費		6,117,090				6,117,090
懇談会費		4,590,818		347,168		4,937,986
見学会事業費		0		0		0
研究会議費		178,769				178,769
事務委託費		2,734,530				2,734,530
支払寄付金		325,000				325,000
表彰事業費			10,301,508	116,329		10,417,837
表彰事業費			2,499,390			2,499,390
企業冠賞費用			2,406,334			2,406,334
研究企画賞費				116,329		116,329
国際賞費用			3,721,151			3,721,151
Mukaiyama Award事業費			1,674,633			1,674,633
給料手当	11,024,261	12,600,776	3,150,194	1,579,350		28,354,581
アルバイト費	931,176	1,064,338	266,084	133,401		2,394,999
退職給付費用	701,662	802,001	200,501	100,521		1,804,685
その他人件費（福利厚生費）	2,147,611	2,454,728	613,681	307,670		5,523,690
会議費	297,019	445,572	99,006	49,548		891,145
旅費交通費	587,872	881,897	195,957	98,067		1,763,793
通信費	352,478	528,771	117,493	58,799		1,057,541
什器備品費	50,102	75,159	16,701	8,358		150,320
事務用品・リース費	571,762	857,729	190,587	95,379		1,715,457
水道光熱費	87,064	130,609	29,021	14,524		261,218
事務所賃借料	1,310,125	1,965,384	436,708	218,551		3,930,768
雑費（税・手数料・会費・IT）	1,513,044	2,269,917	504,347	252,400		4,539,708

表 1・4 平成 27 年度正味財産増減内訳表(2/2)

(平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで)

科 目	公益目的事業会計			その他事業	法人会計	合 計
	公 1 編集・出版	公 2 研究会	公 3 表 彰			
73 管理費					10,580,136	10,580,136
74 給料手当					3,150,503	3,150,503
75 アルバイト費					0	0
76 退職給付費用					200,519	200,519
77 その他人件費 (福利厚生費)					613,744	613,744
78 懇親会費用					1,497,325	1,497,325
79 会議費					645,845	645,845
80 旅費交通費					1,685,612	1,685,612
81 通信費					243,852	243,852
82 什器備品費					16,702	16,702
83 事務用品・リース費					190,598	190,598
84 水道光熱費					29,017	29,017
85 事務所賃借料					436,752	436,752
86 諸謝金					1,095,077	1,095,077
87 雑費 (税・手数料・会費・IT)					774,590	774,590
88 当期経常増減額	▲ 169,215	2,756,596	178,400	40,540	4,571	2,810,892
89 2. 経常外増減の部						
90 経常外収益	0	0	0	0	0	0
91 計上外費用	0	0	0	0	0	0
92 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
93 3. 一般正味財産増減額						
94 一般正味財産期首残高						295,181,948
95 一般正味財産期末残高						297,992,840
96 当期一般正味財産増減額						2,810,892
97 【指定正味財産増減の部】						
98 1. 高砂香料国際賞「野依賞」基金						
99 指定正味財産運用益			▲ 3,719,941			▲ 3,719,941
100 特定資産受取利息			1,210			1,210
101 受取寄付金			0			0
102 一般正味財産への振替額			▲ 3,721,151			▲ 3,721,151
103 指定正味財産期首残高			7,232,589			7,232,589
104 指定正味財産期末残高			3,512,648			3,512,648
105 2. Mukaiyama Award基金						
106 指定正味財産運用益			▲ 1,057,299			▲ 1,057,299
107 特定資産受取利息			2,905			2,905
108 受取寄付金			614,429			614,429
109 一般正味財産への振替額			▲ 1,674,633			▲ 1,674,633
110 指定正味財産期首残高			14,712,347			14,712,347
111 指定正味財産期末残高			13,655,048			13,655,048
112 【正味財産期末残高】						
113 正味財産期末残高						315,160,536

表 1・5 平成 27 年度貸借対照表

平成27年12月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部	A	B	C
1. 流動資産			
現金預金	92,271,673	83,562,512	8,709,161
未収収益	137,155	381,439	▲ 244,284
前払金	553,105	663,695	▲ 110,590
立替金	540	81,675	▲ 81,135
仮払金	11,006	45,633	▲ 34,627
流動資産合計	92,973,479	84,734,954	8,238,525
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
編集出版事業特定資産	28,300,208	31,284,595	▲ 2,984,387
研究会事業特定資産	29,503,931	32,495,904	▲ 2,991,973
表彰事業特定資産	202,367,341	203,539,297	▲ 1,171,956
国際賞基金	3,512,648	7,232,589	▲ 3,719,941
Mukaiyama Award基金	13,655,048	14,712,347	▲ 1,057,299
退職給付引当特定資産	16,381,876	14,376,672	2,005,204
特定資産合計	293,721,052	303,641,404	▲ 9,920,352
(2) その他固定資産			
差入保証金	4,698,000	4,698,000	0
電話加入権	127,284	127,284	0
その他固定資産合計	4,825,284	4,825,284	0
固定資産合計	298,546,336	308,466,688	▲ 9,920,352
資産合計	391,519,815	393,201,642	▲ 1,681,827
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,095	4,095	0
前受金	58,462,320	60,214,255	▲ 1,751,935
預り金	1,410,988	1,468,736	▲ 57,748
仮受金	100,000	11,000	89,000
流動負債合計	59,977,403	61,698,086	▲ 1,720,683
2. 固定負債			
退職給付引当金	16,381,876	14,376,672	2,005,204
固定負債合計	16,381,876	14,376,672	2,005,204
負債合計	76,359,279	76,074,758	284,521
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国際賞受託金	3,512,648	7,232,589	▲ 3,719,941
Mukaiyama Award基金	13,655,048	14,712,347	▲ 1,057,299
指定正味財産合計	17,167,696	21,944,936	▲ 4,777,240
(うち特定資産への充当額)	17,167,696	21,944,936	▲ 4,777,240
2. 一般正味財産	297,992,840	295,181,948	2,810,892
正味財産合計	315,160,536	317,126,884	▲ 1,966,348
負債及び正味財産合計	391,519,815	393,201,642	▲ 1,681,827

表 1・6 平成 27 年度貸借対照表内訳表

平成27年12月31日現在

(単位：円)

科目	公益目的事業会計			その他会計	法人会計	合計
	編集・出版事業会計	研究会事業会計	表彰事業会計			
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金					92,271,673	92,271,673
未収収益			65,418		71,737	137,155
前払金					553,105	553,105
立替金					540	540
仮払金					11,006	11,006
流動資産合計	0	0	65,418	0	92,908,061	92,973,479
2. 固定資産						
(1) 特定資産						
編集出版事業特定資産	28,300,208					28,300,208
研究会事業特定資産		29,503,931				29,503,931
表彰事業特定資産			202,367,341			202,367,341
国際賞基金			3,512,648			3,512,648
Mukaiyama Award 基金			13,655,048			13,655,048
退職給付引当特定資産					16,381,876	16,381,876
特定資産合計	28,300,208	29,503,931	219,535,037	0	16,381,876	293,721,052
(2) その他固定資産						
差入保証金					4,698,000	4,698,000
電話加入権					127,284	127,284
その他固定資産合計	0	0	0	0	4,825,284	4,825,284
固定資産合計	28,300,208	29,503,931	219,535,037	0	21,207,160	298,546,336
資産合計	28,300,208	29,503,931	219,600,455	0	114,115,221	391,519,815
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金					4,095	4,095
前受金					58,462,320	58,462,320
預り金					1,410,988	1,410,988
仮受金					100,000	100,000
流動負債合計	0	0	0	0	59,977,403	59,977,403
2. 固定負債						
退職給付引当金					16,381,876	16,381,876
固定負債合計	0	0	0	0	16,381,876	16,381,876
負債合計	0	0	0	0	76,359,279	76,359,279
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
国際賞受託金			3,512,648			3,512,648
Mukaiyama Award 基金			13,655,048			13,655,048
指定正味財産合計			17,167,696			17,167,696
(うち特定資産への充当額)			(17,167,696)			(17,167,696)
2. 一般正味財産	28,300,208	29,503,931	202,432,759	0	37,755,942	297,992,840
正味財産合計	28,300,208	29,503,931	219,600,455	0	37,755,942	315,160,536
負債及び正味財産合計	28,300,208	29,503,931	219,600,455	0	114,115,221	391,519,815

## 1. 特定資産の明細

表 1・7 附属明細書

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	編集出版事業特定資産	31,284,595	15,613	3,000,000	28,300,208
	研究会事業特定資産	32,495,904	8,027	3,000,000	29,503,931
	表彰事業特定資産	203,539,297	826,378	2,000,000	202,365,675
	国際賞基金	7,232,589	1,210	3,721,151	3,512,648
	Mukaiyama Award 基金	14,712,347	617,334	1,674,633	13,655,048
	退職給付引当特定資産	14,376,672	2,005,204	0	16,381,876
	特定資産計	303,641,404	3,473,766	13,395,784	293,719,386

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	14,376,672	2,005,204	0	0	16,381,876

表 1・8 財産目録

(平成27年12月31日現在)

1	貸借対照表科目		場所・物量等		使用目的等	金額 (円)	1
2	【流動資産】						2
3	預金		振替貯金		運転資金	2,639,197	3
4			普通預金	みずほ銀行神田支店	運転資金	60,987,916	4
5			普通預金	みずほ銀行神田支店	運転資金	3,222,209	5
6			普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	運転資金	2,556,257	6
7			普通預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運転資金	144,882	7
8			普通預金	北海道支部	運転資金	2,058,681	8
9			普通預金	東北支部	運転資金	3,814,436	9
10			普通預金	関東支部	運転資金	7,444,712	10
11			普通預金	東海支部	運転資金	2,897,838	11
12			普通預金	関西支部	運転資金	2,038,500	12
13			普通預金	中国四国支部	運転資金	1,700,017	13
14			普通預金	九州山口支部	運転資金	2,767,028	14
15		未収収益				137,155	15
16		前払金				553,105	16
17		立替金				540	17
18		仮払金	現金	手元保管	運転資金	11,006	18
19	流動資産合計					92,973,479	19
20	【固定資産】						20
21	特定資産	編集事業特定資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を編集出版事業の財源として使用	78,692	21
22			普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を編集出版事業の財源として使用	3,221,516	22
23			定期預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を編集出版事業の財源として使用	10,000,000	23
24			定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を編集出版事業の財源として使用	5,000,000	24
25			定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を編集出版事業の財源として使用	10,000,000	25
26		研究会事業特定資産	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を研究会事業の財源として使用	4,503,931	26
27			定期預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を研究会事業の財源として使用	25,000,000	27
28		表彰事業特定資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	149,409	28
29			普通預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	2,837,932	29
30			定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	8,530,000	30
31			定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	20,000,000	31
32				第326回利付国債	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	100,000,000	32
33				東京都公債第17回	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	50,000,000	33
34				東京都公債第1回	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	20,850,000	34
35		退職給付引当資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部		3,021,876	35
36			定期預金	三井住友信託銀行本店営業部		13,360,000	36
37		国際賞基金	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	3,512,648	37
38		Mukaiyama Award基金	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用	13,655,048	38
39	その他固定資産		差入保証金			4,698,000	39
40			電話加入金			127,284	40
41	固定資産合計					298,546,336	41
42	資産合計					391,519,815	42
43	【流動負債】						43
44		未払金				4,095	44
45		前受金				58,462,320	45
46		預り金				1,410,988	46
47		仮受金				100,000	47
48	流動負債合計					59,977,403	48
49	【固定負債】						49
50		退職給付引当金				16,381,876	50
51	固定負債合計					16,381,876	51
52	負債合計					76,359,279	52
53	正味財産					315,160,536	53

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準および評価方法 満期保有目的債券 償却原価法（定額法）
- (2) 固定資産の減価償却の方法 法人税法に基づき一定額以下は費用処理している。
- (3) 引当金の計上基準  
退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。
- (4) リース取引の処理方法  
ファイナンスリース：リース物件の所有権が借主に移転するを認められる以外のファイナンスリース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理 消費税および地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

## 2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は、次のとおりである。(単位：円)

表 1・9 特定資産の増減額およびその残高

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
編集出版事業特定資産	31,284,595	15,613	3,000,000	28,300,208
研究会事業特定資産	32,495,904	8,027	3,000,000	29,503,931
表彰事業特定資産	203,539,297	828,044	2,000,000	202,367,341
国際賞基金	7,232,589	1,210	3,721,151	3,512,648
Mukaiyama Award 基金	14,712,347	617,334	1,674,633	13,655,048
退職給付引当特定資産	14,376,672	2,005,204	0	16,381,876
合 計	303,641,404	3,475,432	13,395,784	293,721,052

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

表 1・10 特定資産の財源等の内訳

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
編集出版事業特定資産	28,300,208	0	28,300,208	
研究会事業特定資産	29,503,931	0	29,503,931	
表彰事業特定資産	202,367,341	0	202,367,341	
国際賞基金	3,512,648	3,512,648	0	
Mukaiyama Award 基金	13,655,048	13,655,048	0	
退職給付引当特定資産	16,381,876	0	0	16,381,876
合 計	293,721,052	17,167,696	260,171,480	16,381,876

## 4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益は、次のとおりである。(単位：円)

表 1・11 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
国債	100,000,000	104,433,400	4,433,400
地方債	70,850,000	70,635,818	▲ 214,182
合 計	170,850,000	175,069,218	4,219,218

## 5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

表 1・12 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
国際賞事業費計上による振替額	3,721,151
Mukaiyama Award 事業費計上による振替額	1,674,633
合 計	5,395,784

第2号議案 平成28年度役員選任の件

本総会の終結をもって役員13名の任期が満了となるので、定款23条に定めるところにより、役員候補者選出委員会において選出された新任役員候補者(表2)を参考にして、退任役員の後任として新任役員(理事・監事；太字表記13名)を選任する。

表2 平成27年度役員および平成28年度役員候補者対照表

役職区分	平成28年度			
	平成27年度(参考)		新任候補者	
	退任	留任		
会長		佐藤 幸蔵		
副会長		高井 和彦		
副会長	只野 金一		<b>岩澤 伸治</b>	東京工業大学大学院教授
副会長	味戸 慶一		<b>岡田 稔</b>	アステラス製薬(株)研究所長
常務理事(事務局長)		大籠 祐二		
理事(編集担当)		大江 浩一		
理事(編集担当)	中田 雅久		<b>林 雄二郎</b>	東北大学大学院教授
理事(事業担当)		加藤 昌宏		
理事(事業担当)	岩澤 伸治		<b>砂塚 敏明</b>	北里大学教授
理事		秋山 隆彦		
理事		須貝 威		
理事		辻 尚志		
理事	田上 克也		<b>田上 克也</b>	イーザイ(株)部長
理事	佐用 昇		<b>佐用 昇</b>	高砂香料工業(株)執行役員
理事	上野 裕明		<b>宮地 克明</b>	日産化学工業(株)執行役員
理事	山川 一義		<b>宮田博之</b>	宇部興産(株)部長
理事(北海道支部)		澤村 正也		
理事(東北支部)	正田晋一郎		<b>土井 隆行</b>	東北大学大学院教授
理事(関東支部)		内川 治		
理事(関東支部)	砂塚 敏明		<b>柳澤 章</b>	千葉大学大学院教授
理事(東海支部)		石原 一彰		
理事(関西支部)		松原誠二郎		
理事(関西支部)	神戸 宣明		<b>森 敦紀</b>	神戸大学大学院教授
理事(中国・四国支部)		伊藤 敏幸		
理事(九州・山口支部)	宮田博之		<b>徳永 信</b>	九州大学大学院教授
監事		石原 雄二		
監事		小林 進		
監事	小原 義夫		<b>味戸 慶一</b>	Meiji Seika ファルマ(株)部長
人数	13	15	13	

### 第 3 号議案 定款変更の件

総会の招集手段を表 3 に説明するように、現行の「書面」から「書面およびホームページでの告知や電子メール（電磁的方法）」の併用へ変更する。本案は平成 28 年 1 月度理事会で決議されている。

表 3 公益社団法人有機合成化学協会 定款の変更前後対照表

変更前(下線部)	変更後(下線部)	説明
<p>第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き理事会の決議に基づき会長が招集する。会長に事故あるときは、あらかじめ理事会で定めた理事が招集する。</p> <p>2 総代議員数の5分の1以上の議決権を有する代議員は、会長に対し、総会の目的である事項および招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。</p> <p>3 総会を招集する場合は、<u>次の内容</u>を示した書面をもって、開会の日の2週間前までに代議員に通知しなければならない。</p> <p>(1) 日時および場所 (2) 会議の目的たる事項およびその内容</p>	<p>第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き理事会の決議に基づき会長が招集する。会長に事故あるときは、あらかじめ理事会で定めた理事が招集する。</p> <p>2 総代議員数の5分の1以上の議決権を有する代議員は、会長に対し、総会の目的である事項および招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。</p> <p>3 総会を招集する場合は、<u>次の内容</u>を示した書面および電磁的方法をもって、開会の日の2週間前までに代議員に通知しなければならない。</p> <p>(1) 日時および場所 (2) 会議の目的たる事項およびその内容</p>	<p>総会招集には以下の書類が必要となる。</p> <p>1) 審議事項とその説明を記した書面(総会資料)</p> <p>2) 出欠届・書面表決・委任状の回答用紙</p> <p>これまで、上記二つの書類を社員(代議員)に郵送し、2)の回答を返信はがきで受領していた。定款改正後は：</p> <p>✓1)を本会ホームページに掲載(パスワード保護)</p> <p>✓代議員にはメールで1)の掲載URLとアクセスのためのパスワード、対応方法を説明する資料を送付</p> <p>✓別途、代議員宛に返信はがきで2)を送付。</p> <p>✓代議員は1)を読み、2)に必要事項を記入、署名押印して事務局へ返信する。</p>

### 第 4 号議案 名誉会員委嘱の件

定款第 5 条第 5 項および名誉会員の委嘱に係る内規 2 の 2 に定めに基づき、以下の会員に名誉会員を委嘱する。本案は平成 27 年 12 度理事会で名誉会員としての推薦を決議した。

#### 定款第 5 条第 5 項

名誉会員はこの法人に特に功労のあった個人で、理事会が推薦し、かつ総会の承認を経たものとする。

#### 名誉会員の委嘱に係る内規 2 の 2

次の各項に該当する者は理事会の推薦および総会の議決により、会長が名誉会員に委嘱する。

- (1) 会長ならびに会長経験者であって、総会開催当日満 70 歳に達している者
- (2) 本会特別賞受賞者であって、総会開催当日満 70 歳に達している者
- (3) 本会特別賞受賞者であって、会長経験者
- (4) ノーベル賞またはこれに匹敵する業績を有し、わが国の有機合成化学の発展に寄与した者

該当者(氏名五十音順)

1) 大村 智 氏 (北里大学特別栄誉教授)

2015 年度ノーベル医学・生理学賞受賞

2) 桑嶋 功 氏 (東京工業大学名誉教授)

平成 27 年度有機合成化学特別賞受賞 ; 1937 年 11 月 11 日生(満 78 歳)

【参考】

表 4 名誉会員一覧(2015.12.01 現在、委嘱年月日順)

No.	氏名	勤務先役職 or 称号(委嘱当時)	委嘱年月日	生年月日	会長	特別賞
1	野崎 一	京都大学名誉教授	1993.02.16	1922.01.01	85-86	1992
2	E. J. Corey	ハーバード大学教授	1993.02.16	1928.07.12		
3	向山 光昭	東京大学名誉教授、北里研究所	1995.02.21	1927.01.05	89-90	1993
4	浦 康一	元日産化学工業(株)常務取締役	2000.02.22	1929.10.26	95-96	
5	辻 二郎	東京工業大学名誉教授	2000.02.22	1927.05.11		1998
6	野依 良治	理化学研究所理事長	2002.02.19	1938.09.03	97-98	2000
7	吉田 善一	京都大学名誉教授	2003.02.18	1925.08.19		2001
8	森 謙治	東京大学名誉教授	2004.02.18	1935.03.21	93-94	2002
9	鈴木 章	北海道大学名誉教授	2005.02.24	1930.09.12		2003
10	平岡 哲夫	元三共有機合成(株)代表取締役社長	2006.02.23	1935.08.05	03-04	
11	村井 眞二	大阪大学名誉教授	2006.02.23	1938.08.24	01-02	2004
12	村橋 俊一	大阪大学名誉教授	2008.02.20	1937.05.12		2006
13	伊東 椒	東北大学名誉教授	2008.02.20	1924.12.15		2007
14	岸 義人	ハーバード大学名誉教授	2010.02.19	1937.04.13		2009
15	中井 武	東京工業大学名誉教授	2011.02.18	1940.08.30	05-06	
16	根岸 英一	パデュー大学特別教授	2011.02.18	1935.07.14		
17	白濱 晴久	北海道大学名誉教授	2012.02.17	1930.06.28		2011
18	竜田 邦明	早稲田大学名誉教授・栄誉フェロー	2013.02.19	1940.12.01		2012
19	玉尾 皓平	京都大学名誉教授	2014.02.20	1942.10.31		2013
20	山本 尚	シカゴ大学名誉教授	2014.02.20	1943.07.16		2008
21	迫田 良三	元日産化学工業(株)副社長	2014.02.20	1943.08.24	07-08	

#### 第 5 号議案 常勤役員報酬の件

平成 28 年度の常務理事の報酬総支給額は :

- ✓ 「常勤役員の報酬規程」に従って支給する。
- ✓ 平成 23～27 年度の報酬総支給額と同額とする。

(参考)

#### 1. 定款第 28 条

理事及び監事は無報酬とする。ただし常勤の役員については、総会において定める総額の範囲内で総会において別に定める報酬等の支給基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

#### 2. 常勤役員の報酬規程 第 2 条 2

年間報酬総支給額(俸給および通勤費の合計額)が 1000 万円を超えないものとし、人事委員会の議を経て理事会が決定する。

その他

議案があれば挙手の上、提議してください。

【報告事項】

報告 1 平成 27 年度事業報告 (平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで)

1. 平成 27 年度通常総会(第 78 回)

- ✓ 平成 27 年 2 月 19 日 如水会館にて開催
- ✓ 構成員(代議員)98 名中、出席者 93 名(本人出席 23 ; 代理人出席 0 ; 委任状・書面表決 70)
- ✓ 決議事項
  - 1) 第 1 号議案 『平成 26 年度決算報告承認』の件
  - 2) 第 2 号議案 『平成 27 年度役員選任の件』の件
- ✓ 報告事項
  - 1) 報告 1 『平成 26 年度事業報告』の件
  - 2) 報告 2 『平成 27 年度事業計画』の件
  - 3) 報告 3 『平成 27 年度収支予算』の件
  - 4) 報告 4 『永年会員昇格者報告』の件

2. 会員動向

表 5 会員動向

区 分		H26 末	入 会	復 活	退 会	区分変更		異動計	H27 末
普通会員	個人	4,033	75	0	219	90	▲8	▲62	3,971
	法人	207	7	0	3			4	211
	団体	3	0	0	0			0	3
普通会員計		4,243	82	0	222	90	▲8	▲58	4,185
永年会員		207			10		8	▲2	205
名誉会員		21	0		0			0	21
学生会員		657	159	0	113	▲90		▲44	613
合 計		5,128	241	0	345			▲104	5,024

### 3. 事業報告

平成 27 年度に実施した編集出版、研究会、および表彰の各事業について、表 6 のとおり報告する。

表 6・1 平成 27 年度事業報告（その 1）

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<b>公1・編集出版事業</b>	
<b>有機合成化学協会誌</b>	
73巻第1～12号(12冊)、発行部数5,700部/月(第11号を除く)；6,100部(第11号)、年間総ページ1,426 普通号10回 特集号 2回：第5号「フローケストリー」；第11号 Special Issue in English 掲載内容 巻頭言12ページ(12件)、総説34(4)、総合論文762(69)、Review de Debut 40(20)、ラウンジ 40(5)、ケミカルズ覚え書き21(4)、十字路11(44)、新しい合成59(234)、会告・協会記事等281、広告175 電子版 (独)科学技術振興機構が運用する電子ウェブサイト(J-STAGE)に2015年度分を掲載済	
<b>単行本の編集・出版</b>	
「医薬品の合成戦略」 有機合成化学協会編 化学同人	
「第2版 有機合成実験法ハンドブック」 有機合成化学協会編 丸善出版	
<b>公1 関連会議</b>	
有機合成化学協会誌編集委員会(1/23, 3/18, 5/29, 7/31, 9/29,11/4)	
出版委員会(5/28, 9/3)	
<b>公2・研究会事業</b>	
<b>シンポジウム</b>	
<b>【本部】</b>	
第107回有機合成シンポジウム；6/9～6/10；慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂 研究発表：36件 共催：日本化学会；日本薬学会；日本農芸化学会	133(38)
第108回有機合成シンポジウム；11/5～11/6；早稲田大学国際会議場 Oral & Poster発表:41件 Poster発表12件 –企業冠賞受賞講演(2件)– 1. 【第一三共・創薬有機化学賞】 新規合成方法論を基盤とした多官能基性アルカロイドの全合成 (東北大院薬)徳山英利 2. 【日産化学・有機合成新反応/手法賞】 新規固相担持法に基づく高活性金属錯体触媒の開発 (北大院理)澤村正也 共催：日本化学会；日本薬学会；日本農芸化学会	187(72)
第48回酸化反応討論会；10/23～10/24；同志社大学寒梅館(京田辺市) 招待講演2件、一般口頭発表21件、ポスター発表44件 主催・共催：日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会、触媒学会、錯体化学会、同志社大学	153(91)
第45回複素環討論会；11/19～11/21；早稲田大学国際会議場(新宿区) 招待講演 1 件、一般口頭発表59件、ポスター発表102件 主催・共催：日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会、早稲田大学理工学研究所	319(131)
第48回有機金属若手の会・夏の学校；7/13～7/15；白浜荘(高島市) 招待講演3件、依頼講演7件、若手講演6件、ポスター発表136件 主催・共催：近畿化学協会有機金属部会	229(211)
<b>【北海道支部】</b>	
第27回 万有札幌シンポジウム 有機合成化学の挑戦；7/4；北海道大学 1. ポルフィリンの新合成化学と機能探求 (名大院工)忍久保洋 2. 実験と理論で切り拓く有機合成化学：きっかけ、偶然、執念、発見、展開 (東大院薬)内山真伸 3. ハイブリッド天然物に学ぶ：矢印は秘密の呪文？ (東工大院工)鈴木啓介 4. 二酸化炭素を用いる触媒的炭素-炭素結合生成反応の開発 (京大院工)辻康之 5. 心に残る作品から (名大院創薬科学)福山透 以上の5名の演者による講演と19件のポスター発表 主催：万有札幌シンポジウム組織委員会 共催：北海道大学大学院工学研究院フロンティア化学教育研究センター、日本化学会北海道支部	320(285)

表 6・2 平成 27 年度事業報告 (その 2)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
【北海道支部】 つづき	
<p>日本化学会北海道支部 2015年 夏季研究発表会 ; 7/18 ; 北海道教育大学函館校 特別講演2件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海洋生物の水溶性生理活性物質の研究 (北大院水産)酒井隆一</li> <li>2. 日本化学会のさらなる発展とCSJ ジャーナルの役割～研究者の立場から～ (日本化学会・筆頭副会長)黒田一幸</li> </ol> <p>一般講演130件 主催：日本化学会北海道支部 共催他団体：日本分析化学会・高分子学会・触媒学会・日本エネルギー学会・石油学会の各北海道支部、日本セラミックス協会東北・北海道支部</p>	231(149)
<p>若手研究者のための有機化学札幌セミナー ; 11/24 ; 北海道大学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光学活性エチルヘリセンオリゴマーの合成と会合および集合体形成 (東北大院薬)齋藤望</li> <li>2. 銅(I)触媒によるホウ素化反応の新展開 (北大総合化学院)久保田浩司</li> <li>3. チューリップの作り出す抗菌物質 (北大院農)重富顕吾</li> <li>4. ホスフィン有機分子触媒による多置換アルケニルホウ素化合物の新合成法の開発 (北大院総合化)長尾一哲</li> <li>5. 第一遷移金属触媒を活用した精密有機合成～不斉合成およびC-H結合直截変換反応～ (北大院薬)松永茂樹</li> </ol>	158(131)
【東北支部】	
<p>第26回記念万有仙台シンポジウム ; 6/6 ; 仙台国際センター</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケイ素配位子の動的挙動を鍵とする新触媒・新分子変換反応の開発 (東工大院理工)鷹谷絢</li> <li>2. ポルフィリンの新合成化学と機能探求 (名大院工)忍久保洋</li> <li>3. 再生可能資源の有効利用に資する均一系触媒化学 (東大院工)野崎京子</li> <li>4. 多様な構造の天然物への多様な合成アプローチ (東大院農学生命科学)渡邊秀典</li> <li>5. 核酸の小さな構造変化に着目したゲノム標的的化学の展開 (九大院薬)佐々木茂貴</li> <li>6. 研究における不易流行 (横浜薬大漢方薬学科)高橋孝志</li> </ol>	389(308)
<p>仙台地区春の講演会 ; 6/20 ; 東北大学大学院薬学研究科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試薬の開発と最近のトピックスについて (和光純薬工業株式会社試薬化成品研究所)大野桂二</li> <li>2. トポロジー(柔らかい幾何学)を触発する高分子の「かたち」と合成戦略 (東工大)手塚育志</li> <li>3. すべては全合成から始まる (早大栄誉フェロー)竜田邦明</li> </ol>	152(121)
<p>化学系学協会東北大会 ; 9/12～9/13 ; 弘前大学文京キャンパス</p> <p>【特別講演】1 カーボンマイクロコイル(CMC)の開発とその実用化スキーム ((株)CMC総合研究所代表取締役、岐阜大学名誉教授)元島栖二</p> <p>【特別講演】2 日本化学会の発展とCSJジャーナルの役割～研究者の立場から～ (日本化学会筆頭副会長、早大理工学術院教授)黒田一幸</p> <p>【特別講演】3 化学教育の脱ガラパゴスを (東理大総合教育機構理数教育研究センター教授)渡辺正</p> <p>【有機系講演】</p> <p>有機化学セッション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Development of synthetic use of nitroxyl radical catalyzed oxidation reactions (東北大院薬)岩淵好治</li> <li>2. Synthetic Study on the Carbon Nanotube Segment Based on Hexabenzocoronene Synthesis (弘前大院理工)伊東俊司</li> <li>3. Sulfonylaniline-based fluorescent dyes: An effective push-pull system supported by intramolecular hydrogen bonding (山形大院理工)片桐洋史</li> <li>4. Fascinating silicon-containing double bonds from silicon versions of carbene and alkyne (東北大院理)石田真太郎</li> </ol> <p>有機化学コロキウム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 触媒的骨格転位による新規ヘテロ環構築法の開発 (東北大院理) 中村達</li> <li>2. 複雑海洋天然物の全合成と構造改訂 (東北大院生命科学) 不破春彦</li> <li>3. Synthesis and Applications of Two Fluoroalkyl End-Capped Oligomers by Using Fluoroalkanoyl Peroxide as a Key Intermediate (弘前大院理工)澤田英夫</li> <li>4. 細菌感染症克服に向けた化学生物的研究 (東北大院生命科学)有本博一</li> </ol> <p>その他講演 49件、ポスター発表 277件</p>	555(341)

表 6.3 平成 27 年度事業報告 (その 3)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
【東北支部】 つづき	
山形地区講演会；9/24；山形大学工学部 1. フラボノイドC-配糖体の合成 (山形大院理工)佐藤慎吾 2. キラルプレステッド酸触媒ならびに塩基触媒による不斉合成 (東北大院理)寺田眞浩	56(45)
第30回有機合成化学若手研究者の仙台セミナー；12/5；東北大学大学院薬学研究科 1. ナノ多孔質金触媒を用いた精密有機反応の開発 (東北大WPI)石川敬章 2. トリエチレングリコキシ末端を有するエチニルヘリセンオリゴマーの合成と逆熱応答：加熱による二重ラセン形成 (東北大院薬)小林東史 3. 生合成を模倣した(+)-Haplophytineの全合成 (東北大院薬)小島健一 4. Hydrocarbon macrocycles for organic-light emitting devices (東北大院理)Jing Xue 5. 湾曲した炭素クラスター構築に向けた有機合成化学的アプローチ (弘前大院理工)関口龍太 6. 有機ケイ素クラスター分子を共役ユニットとした金属錯体の合成と電子状態 (東北大院理)岸本友輔 7. Lewis塩基触媒のイオンへの付加－脱離を基軸とする位置選択的環化反応の開発 (東北大院薬)齋藤虹矢 8. ハイブリッドカリックスアレーンの配位環境を活用した機能性分子素子の開発 (東北大院工)平澤賢悟	180(158)
【関東支部】	
有機合成化学ミニシンポジウム①；4/24；東京理科大学(神楽坂キャンパス) 全炭素不斉四級炭素の立体選択的構築、そして天然物合成への展開：過去30年間に達成したいいくつかの成果 (慶大名誉)只野金一	188(138)
有機合成化学ミニシンポジウム②；6/27；東海大学(湘南キャンパス) 1. 光を使って生命機能を探る・操る (東工大資源研)中村浩之 2. ペプチド有機触媒の開発 (東大生産研)工藤一秋 3. 植物由来機能性物質の全合成研究 (新潟薬大応用生命)中村豊	98(83)
有機合成化学ミニシンポジウム③；10/9；千葉大学(西千葉キャンパス)自然科学系総合研究棟 1. 新規カリウムイオン競合型アシッドブロッカー-TAK-438(ボノブラザンフマル酸塩)の創製－究極の酸分泌抑制薬を目指して－ (武田薬品工業)西田晴行 2. テンプレートと異分野横断のナノ・マイクロ材料化学－ブロックコポリマー、藻類、タンパク質－ (東工大資源研)彌田智一 3. キラルリン酸触媒の開発と不斉触媒反応への展開 (学習院大理)秋山隆彦	98(73)
第32回有機合成化学セミナー(本部／関東支部主催)；9/15～9/17；ニューウェルシティ湯河原 【Mukaiyama Award受賞講演2件】 1. Complex Natural Products as a Driving Force for Discovery in Organic Chemistry (California Institute of Technology,U.S.A.)Brian M. Stoltz 2. 光・電子機能性分子のユニークなデザイン (名大WPI-トランスフォーメティブ)山口茂弘 【Lectureship受賞講演1件】 From Alkaloids to Terpenoids: Strategies and Tactics for the Synthesis of Polycyclic Natural Products (California Institute of Technology,U.S.A.) Sarah Reisman 【特別講演1件】 微生物二次代謝産物の研究に携わった半世紀を振り返って (北里大特別栄誉教授)大村智 【招待講演7件】 1. 貝毒サキトキシン類の化学 (東京農工大院工)長澤和夫 2. プロセス化学の醍醐味～Echinocandin系抗真菌剤ASP9726の実践的合成法の確立 (アステラス製薬)岡田稔 3. 効率的遺伝子発現制御を目指した選択的化学反应の開発 (東北大多元研)永次史 4. 動的キラル分子の特性に立脚した新しいキラルテクノロジーの開拓 (九大先導研)友岡克彦 5. WuXi AppTec: Building an End-to-End Platform for Global Drug Discovery Research and Development (WuxiAppTec Vice President, Chemistry Service Unit, China) Yan Zhu , Ph.D.	264(107)

表 6・4 平成 27 年度事業報告 (その 4)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>第32回有機合成化学セミナー(本部/関東支部主催) つづき</p> <p>6. 高選択的 A L K 阻害剤アレセンサの創製 (中外製薬)佃拓夫 7. 炭素-水素結合の直截的変換反応でできること、できないこと (阪大院工)茶谷直人 【平成26年度有機合成化学奨励賞受賞講演 5 件】 1. 二配位リン、アンチモン、ビスマス中心ラジカルの長寿命化による15族化学の新展開 (東北大院理)石田真太郎 2. 有機触媒、金属触媒を用いる不斉空間の制御 (理研)五月女宜裕 3. 有機硫黄化合物ならびに炭素-水素結合切断触媒の特性を利用した多置換複素環化合物合成 (岐阜大工)芝原文利 4. 二酸化炭素を一炭素源として用いた新規カルボキシル化反応の開発 (北大院薬)美多剛 5. 光誘起電子移動の精密制御に基づく含窒素化合物の効率的変換反応の開発 (名大院工)三宅由寛 ポスター発表67件 共催: 日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会</p>	
<p>第69回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(横浜シンポジウム); 5/16; 横浜国立大学(常盤台キャンパス) 【特別講演2件】 1. 6 <math>\pi</math> 電子環状反応に基づく有機フォトクロミズムの化学 (横浜国大院工)横山 泰 2. アシルシランからのカルベン生成を利用する新規分子変換手法 (学習院大理)草間博之 一般研究発表78件 共催: 日本化学会; 日本薬学会</p>	196(118)
<p>若手研究者のためのセミナー(第70回記念有機合成化学協会関東支部シンポジウムとコラボ企画で開催); 11/21~11/22; 長岡工業高等専門学校 【特別講演2件】 1. 特異な多環式含窒素生物活性天然物の分子骨格構築法の開発と全合成 (北里大北里生命研)砂塚敏明 2. 有機金属化学が可能にする合成反応設計 (阪大院工・ACT-C)生越専介 【依頼講演3件】 1. パラジウム触媒による一酸化炭素挿入反応を利用した脂肪族不飽和ポリエステル合成 (長岡技科大院工)戸田智之 2. 特殊な骨格をもったセコプレグナンの合成に関する研究 (新潟薬大応用生命)田宮実 3. パラジウムと銅の協同触媒作用を利用した効率的鈴木-宮浦反応の開発 (新潟大工)星隆 一般研究発表60件</p>	159(85)
【東海支部】	
<p>有機合成セミナー; 7/27; 豊橋技術科学大学 1. 有機イオン対の分子設計に基づく触媒機能の創出と応用 (名大院工)大井貴史 2. 低分子から生体高分子までを標的とする触媒反応開発 (東大院薬)金井求</p>	35(30)
<p>若手研究者のためのセミナー; 7/11; 名古屋工業大学 【支部奨励賞受賞講演】 1. スーパー・シリル基を鍵とする高次選択的合成法の開発 (分子科学研)泉関督人 2. 顕著な生物活性を有する天然物の全合成 (静岡県立大薬)稲井誠 3. 有機 <math>\pi</math> 電子系を基盤とする分子集合体の設計・合成とその新機能の開拓 (愛工大工)村田剛志 【招待講演】 1. 不斉ロジウム触媒を用いるボリル化とシリル化反応 (名大院工)西山久雄 2. エピゲノム制御酵素をターゲットとする制がん剤の開発研究 (名市大創薬基盤科学研)宮田直樹</p>	45(34)

表 6・5 平成 27 年度事業報告 (その 5)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>【東海支部】 つづき</p> <p>第46回中部化学関係学協会支部連合秋季大会特別討論会；11/7～11/8；三重大学工学部 【特別討論会】 「21世紀を拓く有機化学」 &lt;依頼講演&gt; 1. マイクロバブル・ナノバブル手法による次世代型気相-液相グリーン化学プロセスの開発 (静岡大院工)間瀬暢之 2. Grignard反応剤由来の高活性亜鉛アート錯体を用いるアルキル付加反応の開発 (名大院工)波多野学 3. 固定化遷移金属触媒：担体素材の性質を利用した有機反応の開発 (岐阜薬大薬)門口泰也 4. 四ヨウ化チタンのヨウ素化および還元力を活用する新規合成反応の開発 (三重大院工)八谷巖 &lt;招待講演&gt; 1. 光学活性ロジウム錯体の不斉合成触媒としての多機能性 (名大院工)西山久雄 2. キラル金属アルコキシド触媒の開発 (千葉大院理)柳澤章 共催：日本化学会、高分子学会、化学工学会、日本農芸化学会、日本油化学、日本薬学会など</p>	558(328)
<p>総合講演会；12/12；名古屋大学 1. ハロゲン化合物を利用した酸化的二重官能基化反応の開発 (千葉大院理)森山克彦 2. 選択的ヘテロ官能基化：触媒設計と応用 (静岡県立大薬)濱島義隆 3. 芳香環構築による高歪み芳香族化合物の合成 (東工大学院理工)田中健 4. Palau'amineの全合成 (徳島大院医歯薬)難波康祐</p>	115(92)
<p>【関西支部】</p> <p>有機合成化学北陸セミナー；10/2～10/3；富山観光ホテル 【特別講演3件】 1. コンフォメーション制御に基づく不斉合成 (京大院工)松原誠二郎 2. 金属と炭素の協同作用：芳香族化合物を選択的に見分ける金属触媒の設計 (阪大院工)安田誠 3. 半導体レジスト材料レジストモノマーの開発 (ダイセル)大野充 【依頼講演2件】 1. すべては全合成から始まる (早大栄誉フェロー)竜田邦明 2. ヨウ素のパワー：メタルフリー合成反応の最先端 (立命館大薬)北泰行 一般研究発表 10件、ポスター発表49件 共催：日本化学会、日本薬学会</p>	176(130)
<p>第35回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」；8/1；京都府立大学下鴨キャンパス 1. 不飽和化合物の高効率官能基化反応の開発 (京大院工)辻康之 2. タンDEMヘテロFriedel-Crafts反応を鍵とした次世代の有機EL材料開発 (関学大理工)畠山琢次 3. 多糖類縁体の機能化に基づく腫瘍造影剤の創出 (京大院工)三木康嗣 4. オリジナル新薬誕生秘話—創薬は有機化学 (JT)春田純一 5. アセタールおよびカルボニル化合物の反応性の逆転・制御 (阪大院薬)藤岡弘道 6. ラジカル種による位置選択的 C-H/C-C 変換反応 (阪府大院理)柳日馨 ポスター発表 66件 共催：日本薬学会</p>	225(153)

表 6・6 平成 27 年度事業報告 (その 6)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>【中国・四国支部】</p> <p>若手研究者のためのセミナー(第31回若手化学者のための化学道場); 8/27~8/28; 淡路夢舞台国際会議場; 世話人: 難波康祐</p> <p>【特別指南講演】</p> <p>1. 天然物の逆合成研究 (名大院創薬)福山透</p> <p>【師範講演】</p> <p>1. 高度に縮環した天然物の合成研究 (岡山大院自然)早川一郎</p> <p>2. エピジェネティクス制御化合物の創製と医薬への応用 (京都府医大院医)鈴木孝禎</p> <p>3. SBDD(Structure-Based Drug Design)による新規キマーゼ阻害剤の創製 (アスピオファーマ)武藤毅</p> <p>4. 糖鎖の機能解明に向けた合成的アプローチ (高知大総研)田中秀則</p> <p>5. 有機合成を基盤とした機能性人工核酸の開発研究 (徳島文理大薬)張功幸</p> <p>6. フェノール類の水素化脱酸素反応の新展開 (愛媛大院理工)太田英俊</p> <p>7. 協働金属触媒による炭素-炭素結合形成反応 (京大院工)中尾佳亮</p> <p>8. 新規農業用殺菌剤の探索研究 (住友化学)塩田隆之</p> <p>9. 高反応性分子を駆使した高次縮環 <math>\pi</math> 電子系分子の創製 (関西学院大理工)羽村季之</p> <p>ポスター発表: 40件</p>	<p>113(79)</p>
<p>【九州・山口支部】</p> <p>第27回若手研究者のためのセミナー; 8/29; 九州大学馬出キャンパスコラボステーション</p> <p>特別講演: 1件 中島誠(熊大院生命)</p> <p>招待講演: 1件 上條真(山口大院理工)</p> <p>受賞講演(ポスター賞): 6件; 企業紹介: 2件; ポスター発表: 22件</p> <p>世話人: 大嶋孝志(九大院薬)</p>	<p>109(77)</p>
<p>第5回PHOENICS国際シンポジウム; 2/27; 熊本大学黒髪南キャンパス</p> <p>担当者: 澤田剛(熊大院工)</p>	<p>123(91)</p>
<p>講習会</p>	
<p>【本部】</p>	
<p>有機合成化学講習会(前期); 6/15~6/16; 長井記念館長井記念ホール</p> <p>テーマ: 有機合成方法論の新潮流 - 使いたい! 注目の反応と技術</p> <p>1. 新しい炭素-炭素結合生成法の開発-炭素-水素結合の遷移金属への酸化的付加を経る官能基化 (慶大理工)垣内史敏</p> <p>2. 有機触媒化学分野での新たな挑戦: 有機ラジカル触媒の創製と活用 (京大院理)丸岡啓二</p> <p>※ランチョンセミナー: 2社 ◇日本電子、◇ロックウッドリチウムジャパン</p> <p>3. C-Hアリール化反応の新規触媒系の開発と医薬品合成への応用 (エーピーアイコーポレーション) 関雅彦</p> <p>4. ALK (anaplastic lymphoma kinase)選択的阻害剤アレクチニブの創製 (中外製薬)及川信宏</p> <p>5. 酸塩基二重活性化を利用する高機能触媒の設計: アミド縮合反応及び不斉ヘテロ環化反応への展開 (名大院工)石原一彰</p> <p>6. Structurally Constrained Ringsがペプチドの可能性を拓く (東大院理)菅裕明</p> <p>7. キラルリン酸触媒反応の新展開-水素結合ネットワークによりどこまで立体制御が可能か (学習院大理)秋山隆彦</p> <p>8. 鉄触媒C-Nカップリング反応を用いる芳香族アミン類の合成 (京大化研)中村正治</p> <p>9. 有機分子触媒を鍵反応に利用した医薬品のプロセス開発 (住友化学)池本哲哉</p> <p>10. HIV-1インテグラーゼ阻害剤 エルビテグラビルの創製 (日本たばこ産業)佐藤元秀</p> <p>11. 遷移金属触媒による直接的芳香族カップリング反応の開発 (阪大院工)三浦雅博</p> <p>12. 多段階合成のすすめ: 戦術的進化と戦略的变化 (東工大院理工)鈴木啓介</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会</p>	<p>100(2)</p>
<p>有機合成化学講習会(後期); 11/16~11/17; 長井記念館長井記念ホール</p> <p>テーマ: 有機合成化学が拓く未来 - 新反応から新技術まで -</p> <p>1. 触媒の不斉プロパルギル位置換反応の開発 (東大院工)西林仁昭</p> <p>2. 中分子創薬のすすめ: 分子進化工学による抗体様分子標的ペプチド“マイクロ抗体”の創出 (阪府大院理)藤井郁雄</p> <p>3. レニン阻害剤の商用製造を志向した効率的な製造プロセスの開発 (大日本住友製薬)高橋和彦</p>	<p>100(0)</p>

表 6.7 平成 27 年度事業報告 (その 7)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>有機合成化学講習会(後期) つづき</p> <p>4. 分子触媒反応における立体制御機構に関する理論的研究 (立教大理)山中正浩</p> <p>5. マイクロバブル・ナノバブル有機合成 ~研究事例と今後の展望~ (静岡大院総合科学技術)間瀬暢之</p> <p>6. 連続フロー法による医薬品・ファインケミカル製造 (東大院理)小林 修</p> <p>7. フローマイクロ合成を利用した複合糖質の合成とその免疫制御機能 (阪大院理)深瀬浩一</p> <p>8. 急進展する有機フッ素化学: 基礎から最近の合成技術まで (群馬大院理工)網井秀樹</p> <p>9. 新規血小板増加薬ストロンボパグの創薬物語 (塩野義製薬)高山正己</p> <p>10. 連続不斉還元、グラムからトンまで (高砂ケミカル)齋藤隆夫</p> <p>11. 水素マネージメントに基づく次世代触媒化学と有機合成戦略 (名大院理)齋藤進</p> <p>12. バイオマス利用キラルプール法による生物活性天然物の合成 (慶大理工)千田憲孝</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会</p>	
【関西支部】	
<p>有機合成 2 月セミナー「有機合成のニュートレンド2015」; 2/3~2/4; 大阪科学技術センター</p> <p>1. 高反応性分子を駆使した新規n共役系分子の合成 (関学大理工)羽村季之</p> <p>2. 日本発の核酸医薬創製に向けて (阪大院薬)小比賀聡</p> <p>3. エチレンを原料とする新規メタクリル酸メチル製造法の開発 (三菱レイヨン)二宮航</p> <p>4. 天然物基盤分子による幹細胞およびがん細胞の制御をめざして (千葉大院薬)荒井緑</p> <p>5. キラルヘリセンオリゴマーの合成と非平衡熱力学的反応 (東北大院薬)山口雅彦</p> <p>6. 膜タンパク質膜挿入の鍵を握る糖脂質 (サントリー生命科学財団)島本啓子</p> <p>7. 有機ラジカル種の特異な性質を探る最近の研究 (阪大院理)久保孝史</p> <p>8. Discovery of Dolutegravir Carbamoyl Pyridone HIV-1 Integrase Inhibitor (塩野義製薬)川筋孝</p> <p>9. 遷移金属触媒を用いる直接的芳香族カップリングの新展開 (阪大院工)三浦雅博</p> <p>10. 全炭素不斉四級炭素の立体選択的構築、そして天然物合成への展開: 過去30年間に達成した いくつかの成果 (慶大名誉)只野金一</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会、近畿化学協会</p>	119(47)
<p>有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」; 9/1~9/2; 大阪科学技術センター</p> <p>1. 酸塩基複合化学を鍵とするキラル金属塩触媒の設計 (名大院工)石原一彰</p> <p>2. 免疫機構調節に関わる信号を伝える細胞表層分子群:有機合成と機能解析 (慶大理工)藤本ゆかり</p> <p>3. 医薬品開発におけるプロセス化学の醍醐味 (中外製薬)加藤昌宏</p> <p>4. 有機合成的手法を用いたナノ炭素の物性変換とその応用 (阪大院工)小久保研</p> <p>5. ラジカル反応の活用による複雑分子構築の単純化 (東大院薬)井上將行</p> <p>6. 金属イオンの架橋によって誘起される <math>\pi</math> 電子系化合物のスタッキング相互作用 (奈良先端大物質創成)湯浅順平</p> <p>7. 革新的蛍光色素への元素化学アプローチ-15族元素リンを鍵とする発光分子のデザイン (名大院理)深澤愛子</p> <p>8. らせんが拓く次世代触媒の不斉合成 (京大院工)杉野目道紀</p> <p>9. 精密重合技術と有機合成化学の融合: 原子移動ラジカル重合によるテレケリックポリアクリレートの開 発 (カネカ)中川佳樹</p> <p>10. 高歪み芳香族化合物の合成: 芳香環構築によるアプローチ (東工大院理工)田中健</p> <p>11. 超ポルフィリン化学の最近の進展 (京大院理)大須賀篤弘</p> <p>共催: 日本化学会; 日本農芸化学会; 日本薬学会; 近畿化学協会</p>	108(53)
懇談会	
【本部】	
<p>2015新春特別フォーラム; 1/15; 化学会館・山の上ホテル(別館)</p> <p>※講演の部</p> <p>「化学・製薬産業のオープンイノベーションの明日を考える」</p> <p>1. 味の素株式会社のR&amp;D—アミノ酸の世界を中心として— (味の素)加藤敏久</p> <p>2. 日本の化学産業の将来とそれを担える経営者像 (東京理大院イノベーション)伊丹敬之</p> <p>※賀詞交換会</p>	133(0)

表 6・8 平成 27 年度事業報告 (その 8)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
懇談会	
【本部】 つづき	
有機合成化学懇談会 ; 11/28 ; 化学会館 企業の若手研究者と交流・討論できる、学生のためのセミナー(第2弾) (1) パネラー紹介 1. 自己紹介と業務紹介 ~製品開発の醍醐味~ (三井化学)篠原直樹 2. 製薬企業における創薬化学研究 (味の素製薬)野口昌嗣 3. 世のため人のため 他人のやれないことをやる (クラレ)鈴木雄高 4. 就職する?それとも就社する? (Meiji Seika ファルマ)坂巻儀晃 5. 企業の研究者として生きる道 (旭硝子)三宅徳顕 6. 業務紹介~製薬企業におけるお仕事 (大正製薬)西川梨絵 7. 料開発の魅力ー三菱化学の研究紹介ー (三菱化学科学技術研究センター)大谷鷹士 (2) パネルディスカッション (3) ブース形式懇談会	39(39)
【北海道支部】	
特別講演会 ; 8/6 ; 北海道大学 潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成 (静岡県立大学薬)菅敏幸 主催 : 北海道大学大学院薬学研究院、日本薬学会北海道支部	72(55)
【東海支部】	
Prof. Dr. Viresh H. Rawal 訪日学者講演会 ; 3/24 ; 名古屋大学 Design and Application of Chiral Hydrogen Bond Donors for Enantioselective Catalysis (Depart. Chemistry, The Univ. Chicago) Prof. Dr. Viresh H. Rawal	75(68)
Prof. Tony K. M. Shing 訪日学者講演会 ; 7/8 ; 静岡県立大学 Entries to Hydroxylated Cycloalka(e)nes via Carbocyclization of Carbohydrates (Department of Chemistry, The Chinese University of Hong Kong) Prof. Tony K. M. Shing	60(45)
Prof. Fu-She Han 訪日学者講演会 ; 7/10 ; 岐阜薬科大学 Transition-metal-catalyzed Bond Formation: Methods and Applications(Changchun Institute of Applied Chemistry, Chinese Academy of Sciences, China) Prof. Fu-she Han, Ph.D.	38(33)
Prof. Fu-She Han 訪日学者講演会 ; 7/17 ; 静岡県立大学 Synthetic Study on Some Indole Alkaloids by Applying Indol-2-yl Carbinol Chemistry (Changchun Institute of Applied Chemistry, Chinese Academy of Sciences(中国科学院 長春応用化学研究所), Republic of China)Prof. Fu-She Han	58(43)
Prof. Sarah E. Reisman 訪日学者講演会 ; 9/17 ; 静岡県立大学 From Terpenoids to Alkaloids: New Strategies and Tactics for the Synthesis of Polycyclic Natural Products(Division of Chemistry and Chemical Engineering, California Institute of Technology, CA, USA)Prof. Sarah E. Reisman	50(40)
Emeritus Professor E. Peter Kündig 訪日学者講演会 ; 9/17 ; 名古屋大学 Multidentate Halogen Bonding in Solution(Ruhr-University Bochum, Germany) Emeritus Professor E. Peter Kündig	65(58)
Prof. Sarah E. Reisman 訪日学者講演会 ; 9/18 ; 名古屋大学 Necessity is the Mother of Invention: Natural Products and the Chemistry They Inspire (Division of Chemistry and Chemical Engineering, California Institute of Technology, CA, USA)Prof. Sarah E. Reisman	68(57)

表 6・9 平成 27 年度事業報告 (その 9)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<b>【東海支部】</b>	
Nobuyoshi Yasuda, Ph.D. 訪日学者講演会 ; 11/5 ; 岐阜薬科大学 Scientific Heritage of Merck Research Laboratories(Senior Principal Scientist Process Chemistry Dept., Merck Research Laboratories, Merck and Co. Inc., Rahway, NJ, USA.)Dr. Nobuyoshi Yasuda	24(16)
Prof. David R. Williams 訪日学者講演会 ; 11/6 ; 静岡県立大学 Studies of Natural Product Synthesis-Target-Inspired Innovation(Department of Chemistry, Indiana University)Prof. David R. Williams	65(55)
<b>【関西支部】</b>	
有機合成新春講演会 ; 1/20 ; 大阪科学技術センター 1. 絨毛虫の生命現象を司る物質の化学 (阪大院理)飯尾英夫 2. 人工光合成の現状と未来 (阪大院工)福住俊一 3. セレンと硫黄の有機化学—個性豊かな名脇役達— (京大化研)年光昭夫 4. 弱い相互作用系の新規構築と解析法の提案 (和歌山大シス工)中西和郎 5. 新しい研究領域を目指して (阪大院工)平尾俊一 共催 : 近畿化学協会	79(23)
セミナー“化学千一夜「あすの化学への夢を語ろう」 ; 6/19~6/20 ; 味の素(株)東海事業所 / プラザ 洞津 1. 見学会 味の素(株)東海工場 2. 味の素(株)のアミノサイエンス分野におけるR&Dと事業化 (味の素)加藤敏久 3. 合言葉はミックス! 異分野融合で分子のチカラをひきだす-合成化学、ナノカーボン科学、動植物科学- (名大WPI-ITbM)伊丹健一郎 4. 放談会「ミクロからマクロへ」(阪大院理)原田明 5. 芳香族アミン類の酸化的変換の新展開 (阪大院工)武田洋平 6. 原薬製造法開発を支える「物性研究・分析法開発・申請規格設定」について(富山化学)上原さゆり 7. 「分子の気持ちを理解して、言うことを聞かせたい」という夢 (京大院薬)高須清誠 共催 : 日本化学会、近畿化学協会	34(4)
<b>【中国・四国支部】</b>	
第72回パネル討論会「特異な相互作用に基づく構造制御」 ; 5/17 ; 広島大学(第1回幹事会・懇話 会合同会議) ; 世話人 : 小島聡志 1. Noncovalent and Reversible Covalent Interactions: Fundamental Studies and New Applications(University of Toronto)Mark S. Taylor 2. らせん高分子・超分子の創製と機能 (名大院工)八島栄次	67(31)
来日学者講演会 ; 7/13 ; 愛媛大学 ; 世話人 : 林 実 1. Efficient Ligand Platforms for Asymmetric Catalysis (Catalan Institution for Research and Advanced Studies, Institute of Chemical Research of Catalonia, Spain) Anton Vidal-Ferran 2. Synthetic Study on Some Indole Alkaloids by Applying Indol-2-yl Carbinol Chemistry (ChangChun Institute of Applied Chemistry, Chinese Academy of Sciences, China) Fushe Han	71(59)
有機合成ミニシンポジウム2015 ; 10/13 ; 鳥取大学 ; 世話人 : 伊藤敏幸 1. Electrochemically Generated Carbocations for Stereoselective Synthesis and Catalytic Reactions (岡山大院自然)菅誠治 2. Organotellurium-Mediated Radical Polymerization (TERP) under Photo-Irradiation (京大化研)山子茂	163(152)
第12回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム ; 12月5日 ; 広島大学 世話人 : 相田美砂子(ナノ・バイオ・インフォ化学研究会、日本化学会) 口頭発表(A)(20分) ; 口頭発表(B)(10分) 主催 : ナノ・バイオ・インフォ化学研究会、日本化学会	63(45)

表 6・10 平成 27 年度事業報告 (その 10)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
【九州・山口支部】	
第52回化学関連支部合同九州大会；6/27；北九州国際会議場(北九州市) 化学関係九州支部(共催) 担当：高分子学会九州支部 有機分野120件 特別講演：1件 招待講演：8件 ポスター発表	約1,000
第1回有機合成化学講演会；5/15；九州大学馬出キャンパスコラボステーション 招待講演：3件 古賀登(九大院薬)；上原久俊(三菱化学)；山口茂弘(名古屋大) 世話人：安田琢麿(九大稲盛)	113(59)
第2回有機合成化学講演会・支部各賞表彰式；11/26；住友化学大分工場桜クラブ 支部賞受賞講演：3件 内田竜也(九大基幹教育)；田丸俊一(崇城大工)；石田真敏(九州大) 依頼講演：2件 原田拓典(大分大工)；石井努(久留米高専)	25
外国人特別講演会；7/9；九州大学箱崎キャンパス理学部化学第2講義室 講演：1件 Prof. Anton Vidal 担当：桑野良一(九大院理)	19(13)
先導物質化学研究所講演会；7/9；九州大学先導物質化学研究所筑紫地区南棟112 講演：1件 Prof.Fu-she Han 担当：新藤充(九大先導研)	30(25)
見学会	
【九州・山口支部】	
住友化学大分工場桜クラブ；11/27；担当：住友化学	17
公2 関連会議	
有機合成化学協会事業委員会(3/6,5/13,7/6,9/29,12/10) 5/13 平成28年度(秋季)有機合成化学講習会企画委員会 3/6 第109回有機合成シンポジウムプログラム編成会議 7/6 第110回有機合成シンポジウムプログラム編成会議 3/6 新企画WG会議	
公3. 表彰事業	担当組織
有機合成化学特別賞の選考と受賞者(1件採択) 理事による予備投票(6~8月郵便)/本投票(9/18) ● 桑嶋功(東京工業大学名誉教授) 業績：有機反応・合成設計 表彰式・受賞講演(平成28.2/18)	理事会
有機合成化学協会賞・奨励賞の選考と受賞者(協会賞：4件；奨励賞：5件採択) 各支部推薦委員会(~7月) 奨励賞書面審査(7月；郵便) 協会賞(学術/技術)・奨励賞選考委員会(10/6~10/7) 有機合成化学協会賞(学術的なもの) ● 石原一彰(名古屋大学) 業績：酸塩基複合化学に立脚する高機能触媒の創製 ● 笹井宏明(大阪大学) 業績：新規概念に基づくエナチオ選択的触媒の創出と応用 有機合成化学協会賞(技術的なもの) ● 柿沼浩行ら(大正製薬株式会社) 業績：選択的SGLT2阻害剤ルセオグリフロジンの創製 ● 村形政利ら(中外製薬株式会社) 業績：高選択的連続ハロゲン金属交換反応を特徴とするSGLT2阻害剤トホグリフロジンの効率的合成法の確立	協会賞・奨励賞 選考委員会

表 6・11 平成 27 年度事業報告 (その 11)

事業の名称および事業の概要	担当組織
<p>有機合成化学奨励賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相川光介(東京工業大学) 業績：炭素-炭素結合形成反応を基盤とする含フッ素化合物の立体および位置選択的合成法の開発</li> <li>● 雨夜徹(大阪大学) 業績：スマネンを基盤とするポウル型<math>\pi</math>共役系分子の合成と機能</li> <li>● ILIES Laurean(東京大学) 業績：鉄触媒を用いた炭素-水素結合活性化反応の開発</li> <li>● 河内卓彌(慶應義塾大学) 業績：革新的な物質活性化法を駆使した新しい触媒的分子変換法の開発</li> <li>● 澁谷正俊(名古屋大学) 業績：有機ニトロキシラジカルの酸化還元特性を利用した効率的酸化システムの開発</li> </ul> <p>表彰式(平成28.2/18) 受賞講演：協会賞(学術的なもの；平成28.2/18)；奨励賞(平成28.9.6-8)</p>	
<p>Mukaiyama Award の選考と受賞者(国内および海外各1件採択)</p> <p>Mukaiyama Award委員会(2016受賞者選考委員会 8/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 依光英樹(京都大学) The curiosity-driven invention of useful reactions and synthetic strategies of striking originality, covering a vast range of chemical sciences from bioactive molecules to atomic layers.</li> <li>● Prof. M. Christina White(Univ. Illinois at Urbana-Champaign) Cracked the code for selective C-H reactivity and pioneered the late-stage C-H functionalization strategy by developing catalysts with differential sensitivities to C-H bond electronics, sterics, and stereoelectronics that enable predictable site-selective oxidations in complex molecules.</li> </ul> <p>2015年度受賞者の表彰式・受賞講演(平成27.9/16) 2016年度受賞者の表彰式・受賞講演(平成28.9/6-8)</p>	Mukaiyama Award委員会
<p>Lectureship Award</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Prof. Sarah E. Reisman(California Inst. of Tech.) Necessity is the Mother of Invention: Natural Products and the Chemistry they Inspire</li> </ul> <p>表彰式・受賞講演(平成27.9/16)</p>	関東支部
<p>企業冠賞の選考と受賞者(各1件、合計2件採択)</p> <p>第一三共「創薬有機化学賞」書面審査(郵便；～11/17)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 戸嶋一敦(慶應義塾大学) 業績：糖質、抗生物質および生体機能光制御分子の化学合成と化学生物学的研究</li> </ul> <p>日産化学「有機合成新反応／手法賞」書面審査(郵便；～11/17)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 西林仁昭(東京大学) 業績：触媒的プロパルギル位置換反応の開発と不斉反応への展開</li> </ul>	企業冠賞選考委員会
<p>高砂香料国際賞「野依賞」関連</p> <p>野依賞委員会(選考委員会 8/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Prof. Larry E. Overman (Univ. California, Irvine) Using synthesis strategies developed largely in his laboratory, Professor Overman and his coworkers have completed total syntheses of more than 100 structurally complex natural products.</li> </ul> <p>表彰式・受賞講演(平成28.2/18)</p>	野依賞委員会

表 6・12 平成 27 年度事業報告 (その 12)

事業の名称および事業の概要	担当組織
支部表彰	
<p>【関西支部】 第13回関西支部賞受賞講演会；12/4；大阪科学技術センター 1. 触媒的不斉水素化反応の開発と工業的スケールへのスケールアップ (武田薬品工業)山田雅俊 2. スピロ型キラル金属触媒を活用する酸化的不斉環化反応の開発 (阪大産研)竹中和浩 3. 海洋天然物を中心とする生理活性化合物の全合成研究 (大阪薬大)宇佐美吉英 共催：近畿化学協会</p>	56(8)
<p>【中国・四国支部】 有機合成化学特別講演会「支部奨励賞受賞講演並びに特別招待講演会」；11/14；岡山大学(第2回幹事会・懇話会合同会議)；世話人：高井和彦 1. 支部奨励賞受賞講演 新規分子内環化付加反応の開発と有機合成化学を基盤とする生物活性物質の創出 (岡山大院自然)工藤孝幸 2. 特別招待講演 すべては全合成から始まる(早大栄誉フェロー)竜田邦明</p>	84(56)
他 1 (共益事業)	
ゆうこう会	
<p>第14回ゆうこう会；4/15；King of Kings(大阪) 講演1件 持続可能な社会を構築するための科学・技術 ―化学者の思い (阪大名誉)村橋俊一</p>	28(0)
<p>第15回ゆうこう会；6/3；化学会館 講演1件 化学の視点より精神疾患の病理と薬理に迫る (東工大名誉)諸岡良彦</p>	20(0)
<p>第16回ゆうこう会；10/30；King of Kings(大阪) 講演1件 有機合成化学は共同研究の強力な味方 (京大名誉)生越久靖</p>	21(0)
<p>第17回ゆうこう会；11/30；化学会館 講演1件 Isomers・異性体---同じなのか異なるのか? 数理立体化学のすすめ (湘南情報数理化学研究所)藤田眞作</p>	14(0)
研究企画賞	担当組織
<p>研究企画賞選考委員会(11/18) ● 旭化成ファーマ研究企画賞:清水章弘(京都大学) 電解酸化によるC-H/C-Hクロスカップリング反応の開発と集積型反応への展開 ● 味の素研究企画賞:渡辺賢司(九州大学) 水中で進行するベンジル位チオール化反応の開発及び中分子合成への適用 ● アステラス製薬研究企画賞:田中信也(東北大学) 可逆的FLPIにより活性化された二酸化炭素による親電子的カルボキシル化の開発 ● ADEKA研究企画賞:南豪(山形大学) 分子認識能を賦与した有機半導体材料の創製とそのデバイス応用 ● 宇部興産研究企画賞:神野伸一郎(岡山大学) 単一分子でRGB発光をしめす <math>\pi</math> 共役分子の創製：細胞内金属イオン濃度のフルカラーマッピングへの応用 ● エーザイ研究企画賞:山田健(北里大学) カスケード反応を駆使した特異な大環状炭素環天然物の全合成とアフリカ睡眠病治療薬の創製研究 ● カネカ研究企画賞:兵藤憲吾(龍谷大学) トランスオキシム化酵素反応をモチーフとしたオキシムをヒドロキシルアミン等価体と見做す触媒反応と展開 ● コニカミルタ研究企画賞:庄子良晃(東京工業大学) 空軌道配列の精密制御に基づく新規電子輸送システムの構築 ● 塩野義製薬研究企画賞:岩崎真之(岡山大学) 選択的なラジカル付加を利用した不飽和化合物のアミノチオ化反応の開発</p>	研究企画賞選考委員会

表 6・13 平成 27 年度事業報告（その 13）

事業の名称および事業の概要	担当組織
<p>研究企画賞 つづき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昭和電工研究企画賞:伊藤英人(名古屋大学) 革新的有機ナノチューブ合成と機能創出</li> <li>● セントラル硝子研究企画賞:住井裕司(名古屋工業大学) ハロゲン結合を駆動力とした触媒および反応の開発</li> <li>● 第一三共研究企画賞:川戸勇士(静岡県立大学) 不斉触媒プラットフォームとしてキラルオレフィンを駆使する不斉ハロゲン化反応の開発</li> <li>● 大正製薬研究企画賞:福田隼(北海道大学) 炎症収束生体内脂質レゾルビンの安定等価体の創製とその標的タンパクの同定への展開</li> <li>● ダイセル研究企画賞:山本哲也(東京電機大学) メタノールをプラットフォームとするカルボニル化合物の触媒的自在合成法の開発</li> <li>● 高砂香料工業研究企画賞:山村正樹(筑波大学) 曲面キラリティーを有するキラルホスフィンを用いた分子認識型触媒の開発</li> <li>● 武田薬品工業研究企画賞:該当なし</li> <li>● 田辺三菱製薬研究企画賞:池内和忠(関西学院大学) ニトロ基を駆使した二重結合の新規変換反応の開発</li> <li>● 中外製薬研究企画賞:南保正和(名古屋大学) 多置換メタン類の短工程合成を指向した触媒的炭素-スルホニル結合活性化反応の開発</li> <li>● 帝人ファーマ研究企画賞:山田耕平(金沢大学) カルボン酸・アミノ酸・ボロン酸からなる三置換オキサゾール短工程合成法の開発と応用</li> <li>● 東ソー研究企画賞:西形孝司(山口大学) アルカリ金属フッ化物を用いるアルキル臭化物の銅触媒フッ素化反応開発</li> <li>● 東レ研究企画賞:清水洋平(東京大学) ホウ素触媒と遷移金属触媒の協奏的効果によるカルボン酸の化学選択的修飾反応の開発</li> <li>● 日産化学工業研究企画賞:村田剛志(愛知工業大学) 縮合多環型有機中性ラジカルからなる多孔質配位空間の構築と機能性探索</li> <li>● 日本触媒研究企画賞:星谷尚亨(京都薬科大学) in situ ナノ空間制御法を用いる遷移金属ナノパーティクル触媒の開発とその有機合成への応用</li> <li>● 富士フイルム研究企画賞:隅田有人(理化学研究所) アラインの極性転換に基づく複雑芳香環の迅速構築法の開発</li> <li>● 三井化学研究企画賞:桑折道済(千葉大学) 磁場に応答する強磁性元素複合高分子の合成と応用</li> <li>● 三菱化学研究企画賞:西井圭(小山工業高等専門学校) 有機希土類金属触媒による革新的な熱可塑性エラストマーの合成とその実用化</li> <li>● Meiji Seikaファルマ研究企画賞:富宿賢一(明星大学) 生体触媒によるドミノ型酸化-不斉環化反応の開発と生物活性アルカロイド合成への展開</li> <li>● 和光純薬工業研究企画賞:平野圭一(東京大学) 芳香族C-H結合の直接的かつ位置・化学選択的な高フッ素系官能基導入法の開発</li> </ul>	<p>研究企画賞 選考委員会</p>
法人運営関連会議	
本部関連	
<p>第78回通常総会(定期社員総会；2/19)          運営委員会・理事会(1/29, 2/19,4/17, 6/26, 9/18, 12/4)          財務・予算委員会(9/18)；支部長懇談会(4/17,9/18,12/4)；事業革新WG(4/10,6/26,12/4,1/29)          平成28年度役員候補者選出委員会(10/22)</p>	
支部関連	
<p>【北海道支部】          有機合成化学協会北海道支部役員懇談会；7/4；北海道大学          1. 平成26年度収支決算報告          2. 北海道支部内繰越金の推移          3. 意見交換</p>	

表 6・14 平成 27 年度事業報告（その 14）

事業の名称および事業の概要	
第33回有機合成化学セミナー 第1回実行委員会；10/30；北海道大学	1. 今後のスケジュール確認 2. 予算について 3. Lectureship講演者の選定 4. その他
【関東支部】	4/24 支部幹事会；常任幹事会（東京理科大学） 7/8 常任幹事会（化学会館） 10/1 支部幹事会；常任幹事会（化学会館） 12/24 常任幹事会（化学会館） 7/8 支部奨励賞推薦委員会（化学会館） 11/21 新潟シンポ世話人会・新潟地区幹事会合同会議
【九州・山口支部】	事務引継会；2/3；九州大学箱崎キャンパス 参加者：H26/27幹事執行部、相談役、監査、事務局員 支部各賞選考委員会；5/15；九州大学馬出キャンパスコラボステーション 奨励賞・優秀論文賞・技術賞候補者によるヒアリング；支部各賞選考委員(7名) 第1回幹事会；5/15；九州大学馬出キャンパスコラボステーション 議題：平成26年度事業報告；平成26年度会計決算報告；平成27年度事業計画；平成27年度予算案他 第2回幹事会；11/27；住友化学大分工場桜クラブ 議題：平成27年度中間事業報告；平成27年度中間会計報告；平成28年度事業計画；平成28年度予算案他 担当：住友化学

#### 業報告附属明細書

平成 27 年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

報告 2 平成 28 年度事業計画

平成 28 年度編集出版、研究会、および表彰の各事業計画について、以下のとおり報告する。

表 7・1 平成 28 年度事業計画(その 1)

事業の名称・事業の概要	主催	共催
公 1・編集出版事業		
有機合成化学協会誌 74巻第1～12号(12冊)、発行部数5,800部/月、年間総ページ1,600 普通号10回 特集号 2回 第 5号「有機合成化学とケミカルバイオロジーの接点」 第11号 Special Issue in English	本部	
単行本の編集・出版 随時	本部	
公 1 関連会議 有機合成化学協会誌編集委員会(日時未定；6回) 出版委員会(日時未定；3回)	本部	
公 2・研究会事業		
シンポジウム 第109回有機合成シンポジウム(6/8-9；東京工業大学大岡山キャンパス) 第110回有機合成シンポジウム(11/10-11；早稲田大学国際会議場) 第49回酸化反応討論会 第46回複素環化学討論会 第51回有機反応若手の会 第49回有機金属若手の会 北海道支部2016年度研究発表会(7月；場所未定) 若手研究者のための有機化学札幌セミナー(11月；場所未定) 第33回有機合成化学セミナー(北海道支部；実行委員長・澤村正也) (9月6～8日；ヒルトンニセコビレッジ、北海道ニセコ町) 仙台地区春の講演会(6月；場所未定) 仙台セミナー賞受賞者への有機合成シンポジウム参加支援事業(6月) 仙台セミナー賞受賞者への有機合成シンポジウム参加支援事業(11月) 福島地区講演会(日時・場所未定) 若手研究者のための仙台セミナー(12月) 化学系学協会東北支部大会(共催；9月) 有機化学コロキウム(共催；9月) 第71回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (5/14；東京農工大学小金井キャンパス) 第72回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(新潟シンポジウム) (11/26-27；新潟薬科大学) 有機合成化学ミニシンポジウム①(4/15；東京理科大学記念講堂) 有機合成化学ミニシンポジウム②(日時未定；東海大学) 有機合成化学ミニシンポジウム③(日時未定；千葉大学) 有機合成化学ミニシンポジウム④(日時未定；工学院大学) 若手研究者のためのセミナー(日時・場所未定)	本部 本部 他学会 他学会 他学会 他学会 北海道支部 北海道支部 北海道支部 東北支部 東北支部 東北支部 東北支部 他学会 他学会 関東支部 関東支部 関東支部 関東支部 関東支部	本部 本部 本部 本部 本部 万有財団 本部 本部 東北支部 東北支部

表 7・2 平成 28 年度事業計画(その 2)

事業の名称・事業の概要	主催	共催
公 2・研究会事業(つづき)		
<p>シンポジウム</p> <p>有機合成セミナー(6月; 静岡県立大学)</p> <p>有機合成化学総合講演会(12月; 岐阜大学)</p> <p>若手研究者のためのセミナー(7月; 三重大学)</p> <p>第47回中化連秋季大会(11/5-6; 豊橋技術科学大学)</p> <p>第47回中化連秋季大会特別討論会(11/5-6; 豊橋技術科学大学)</p> <p>第36回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」(若手研究者のためのセミナー): 日時未定、京都薬科大学</p> <p>有機合成北陸セミナー&lt;石川&gt;(10/7-8; 石川県青少年総合研修センター)</p> <p>若手研究者のためのセミナー(第32回若手化学者のための化学道場)</p> <p>世話人: 愛媛大学; 日時・場所未定</p> <p>第28回若手研究者のためのセミナー(8月; 九州大学馬出キャンパス)</p>	<p>東海支部</p> <p>東海支部</p> <p>東海支部</p> <p>東海支部</p> <p>東海支部</p> <p>関西支部</p> <p>関西支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>九州山口支部</p>	<p>他学会</p> <p>他学会</p>
<p>講習会</p> <p>平成28年度前期有機合成化学講習会(6/15-16; 日本薬学会館)</p> <p>平成28年度後期有機合成化学講習会(11/中旬-下旬; 日本薬学会館)</p> <p>有機合成2月セミナー“有機合成のニュートレンド2016”(2/2-3; 大阪科学技術センター)</p> <p>有機合成夏期セミナー“明日の有機合成化学”(日時・場所未定)</p>	<p>本部</p> <p>本部</p> <p>関西支部</p> <p>関西支部</p>	
<p>懇談会</p> <p>有機合成化学懇談会(日時・場所未定)</p> <p>2016新春特別フォーラム(1/14; 化学会館/山の上ホテル)</p> <p>企業の若手研究者と交流・討論できる学生のためのセミナー(日時・場所未定)</p> <p>来日化学者講演会: 随時</p> <p>来日化学者講演会: 随時</p> <p>有機合成化学談話会: 9月下旬・和光純薬湯河原研修所</p> <p>訪日学者講演会(10件; 日時・場所未定)</p> <p>有機合成新春講演会(1/20; 大阪科学技術センター)</p> <p>セミナー-化学千一夜“明日の化学への夢を語ろう”(6/17-18; 中野BC(株)・花王(株)有田研修所)</p> <p>第73回パネル討論会(5月; 岡山大学)</p> <p>第74回パネル討論会または有機合成ミニシンポジウム2016(日時・場所未定)</p> <p>来日学者講演会(5件; 随時)</p> <p>第56回有機電解合成公開セミナー(日時未定; 岡山大学)</p> <p>第13回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム(日時未定; 広島大学)</p> <p>第1回有機合成化学講演会(4/22; 九州大学馬出キャンパスコラボレーション)</p> <p>第53回化学関連支部合同九州大会(7/2; 北九州国際会議場)</p> <p>来日学者講演会(最大4件)</p>	<p>本部</p> <p>本部</p> <p>本部</p> <p>北海道支部</p> <p>東北支部</p> <p>関東支部</p> <p>東海支部</p> <p>関西支部</p> <p>関西支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>他学会</p> <p>他学会</p> <p>九州山口支部</p> <p>日本分析化学会</p> <p>九州山口支部</p>	<p>関東支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>中国四国支部</p> <p>九州山口支部</p>
<p>見学会</p> <p>有機合成見学会(日時・場所未定)</p> <p>見学会(11月; 詳細未定)</p>	<p>本部</p> <p>九州山口支部</p>	
<p>公 2 関連会議</p> <p>事業委員会(日時未定; 5回)</p> <p>有機合成化学シンポジウムプログラム編成会議(2回)</p>	<p>本部</p> <p>本部</p>	

表 7-3 平成 28 年度事業計画(その 3)

事業の名称・事業の概要	担当組織
<b>公 3. 表彰事業</b>	
有機合成化学特別賞関連 理事による予備投票(6-8月郵便)/本投票(9月会議)	理事会
有機合成化学協会賞・奨励賞関連 各支部推薦委員会(～7月) 協会賞(技術)・奨励賞書面審査(7月;郵便) 協会賞(学術/技術)・奨励賞選考委員会(10-11月)	各支部 協会賞等選考委員会 協会賞等選考委員会
Mukaiyama Award関連会議 Mukaiyama Award委員会(選考委員会)	Mukaiyama Award委員会
企業冠賞関連 第一三共「創薬有機化学賞」書面審査(郵便) 日産化学工業「有機合成新反応/手法賞」書面審査(郵便)	左記選考委員会 左記選考委員会
高砂香料国際賞「野依賞」関連 野依賞委員会	野依賞委員会
支部表彰 第14回支部賞授賞講演会(日時・場所未定) 有機合成化学特別講演会(支部奨励賞受賞講演並びに特別招待講演会) (11月;広島大学) 支部各賞選考委員会(4/22;九州大学) 第26回万有福岡シンポジウム(4/23;九州大学馬出キャンパス百年講堂) 第2回有機合成化学講演会・支部各賞表彰式(11月;場所未定)	関西支部 中国四国支部 九州山口支部 九州山口支部 九州山口支部
<b>他 1 (共益事業)</b>	
国際視察団派遣(企業視察;日時・場所未定)	本部
技術アドバイザー事業(平成28年度に認定申請を予定)	本部
ゆうごう会(日時・場所未定)	本部
研究企画賞 研究企画賞選考委員会	研究企画賞選考委員会
<b>法人運営関連会議</b>	
本部関連 第79回通常総会(定期社員総会;2/18;如水会館) 運営委員会(1/29,4/14,6/17,9/16,12/12;化学会館) 理事会(1/29,4/14,6/17,9/16,12/12;化学会館) 理事会第一分科会(研究会事業改革)開催日・場所は理事会に同じ 理事会第二分科会(表彰事業改革)開催日・場所は理事会に同じ 平成29年度役員候補者選出委員会	本部 本部 本部 本部 本部 本部
支部関連 常任幹事会(2/13;名古屋) 支部総会(11/5;豊橋技術科学大学) 支部奨励賞選考委員会(4月;メール会議) 協会賞等支部推薦委員会(日時・場所未定) 第1回幹事会:3月上旬頃、大阪科学技術センター 第2回幹事会:4月下旬頃、場所未定 第3回幹事会:7月下旬頃、場所未定 第4回幹事会:11月頃、場所未定 平成28年度第1回幹事会・懇話会合同会議(5月;岡山大学) 平成28年度第2回幹事会・懇話会合同会議(11月;広島大学) 第1回幹事会・講演会(4/22;九州大学馬出キャンパスロボステーション) 第2回幹事会・講演会・表彰式・見学会(11月;場所未定)	東海支部 東海支部 東海支部 東海支部 関西支部 関西支部 関西支部 関西支部 中国四国支部 中国四国支部 九州山口支部 九州山口支部

報告3 平成28年度収支予算

平成28年度予算を表8・1～8・3に示す。平成27年度決算黒字額(281万円)は関東支部主催有機合成化学セミナーの例年に勝る利益によるもので、28年度はその相当額利益が期待できない。会費収益および広告料収益の減益相当額が赤字となる見通し。

表8・1 平成28年度正味財産増減予算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

正味財産増減予算書(本部・支部連結) 科目	平成28年度	平成27年度	増減	【参考】 平成27年度決算
	A	B	C	D
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
経常収益計	136,423,250	138,416,400	▲ 1,993,150	137,435,382
【特定資産運用益】				
特定資産受取利息	849,000	890,000	▲ 41,000	855,349
【受取会費】				
正会員受取会費	71,476,500	73,468,650	▲ 1,992,150	72,780,255
【事業収益】				
編集出版事業収益	15,488,000	15,014,000	474,000	15,895,823
研究会事業収益	34,170,000	38,221,000	▲ 4,051,000	36,280,684
表彰事業収益	4,300,000	4,050,000	250,000	4,350,000
【受取寄付金】				
受取寄付金	6,700,000	6,660,000	40,000	6,955,784
【雑収益】				
受取利息	9,750	12,750	▲ 3,000	11,200
雑収益	100,000	100,000	0	120,287
懇親会参加料収益	3,330,000		3,330,000	186,000
経常費用(事業費および管理費)計	138,503,800	141,437,595	▲ 2,933,795	134,624,490
編集出版事業費	27,210,215	30,138,215	▲ 2,928,000	27,438,083
研究会事業費	32,738,073	37,926,373	▲ 5,188,300	33,800,529
表彰事業費	10,807,637	11,175,857	▲ 368,220	10,417,837
給料手当	30,590,000	30,500,000	90,000	31,505,084
アルバイト費	2,400,000	2,400,000	0	2,394,999
退職給付費用	2,300,000	2,300,000	0	2,005,204
その他人件費(福利厚生費)	6,455,000	6,300,000	155,000	6,137,434
会議費	1,710,000	2,280,000	▲ 570,000	1,536,990
旅費交通費	3,795,000	3,535,000	260,000	3,449,405
通信費	1,346,000	1,541,000	▲ 195,000	1,301,393
什器備品費	167,000	550,000	▲ 383,000	167,022
事務用品・リース費	1,900,000	2,100,000	▲ 200,000	1,906,055
水道光熱費	290,000	286,650	3,350	290,235
事務所賃借料	4,367,000	4,410,000	▲ 43,000	4,367,520
諸謝金	1,100,000	1,200,000	▲ 100,000	1,095,077
懇親会費	6,385,000			1,497,325
雑費(税・手数料・会費・IT)	4,942,875	4,794,500	148,375	5,314,298
評価損等調整前当期増減額	▲ 2,080,550	▲ 3,021,195	940,645	2,810,892
2. 経常外増減の部				
経常外収益	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	297,992,840	295,181,948		295,181,948
一般正味財産期末残高	295,912,290	292,160,753		297,992,840
II 指定正味財産増減の部				
野依賞基金				
特定資産受取利息	1,200	1,000	200	1,210
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000	0
一般正味財産への振替額	▲ 4,000,000	▲ 4,000,000	0	▲ 3,721,151
当期指定正味財産増減額	1,200	▲ 3,999,000	4,000,200	▲ 3,719,941
指定正味財産期首残高	3,512,648	7,232,589	▲ 3,719,941	7,232,589
指定正味財産期末残高	3,513,848	3,233,589	280,259	3,512,648
Mukaiyama Award 基金				
特定資産受取利息	2,800	1,000	1,800	2,905
受取寄付金	0	600,000	▲ 600,000	614,429
一般正味財産への振替額	▲ 1,600,000	▲ 1,600,000	0	▲ 1,674,633
当期指定正味財産増減額	▲ 1,597,200	▲ 999,000	▲ 598,200	▲ 1,057,299
指定正味財産期首残高	13,655,048	14,712,347	▲ 1,057,299	14,712,347
指定正味財産期末残高	12,057,848	13,713,347	▲ 1,655,499	13,655,048
I I I 正味財産期末残高	311,483,986	309,107,689	2,376,297	315,160,536

表8・2 平成28年度修正正味財産増減予算書内訳表(1/2)

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

正味財産増減予算書内訳 科目	公益目的事業会計				収益事業等会計	法人会計	合計
	公1 編集出版	公2 研究会事業	公3 表彰事業	公益事業共通	他1 会員限定事業		
	A	B	C	D	E	F	G
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
経常収益計	15,505,750	32,990,000	9,220,500	56,466,435	5,219,781	17,020,785	136,423,250
【特定資産運用益】							849,000
編集出版特定資産受取利息	16,000						16,000
研究会特定資産受取利息		8,000					8,000
表彰特定資産受取利息			820,000				820,000
退職特定資産受取利息	1,750	2,000	500		251	500	5,000
【受取会費】							71,476,500
個人会員受取会費				30,522,835	772,730	7,340,935	38,636,500
法人会員受取会費				23,565,700	596,600	5,667,700	29,830,000
団体会員受取会費				126,400	3,200	30,400	160,000
学生会員受取会費				2,251,500	57,000	541,500	2,850,000
【事業収益】							64,097,750
編集事業収益							15,488,000
会誌事業収益	4,600,000						4,600,000
広告事業収益	9,598,000						9,598,000
別冊事業収益	400,000						400,000
会誌関係雑収益	0						0
単行本印税収益	500,000						500,000
複写権使用料収益	390,000						390,000
研究会事業収益							34,170,000
シンポジウム事業収益		17,700,000					17,700,000
講習会事業収益		12,200,000					12,200,000
懇談会事業収益		1,980,000					1,980,000
見学会事業収益		0					0
国際視察団事業収益					2,150,000		2,150,000
ゆうごう会事業収益					140,000		140,000
表彰事業収益							4,300,000
研究企画賞事業収益					1,500,000		1,500,000
企業冠賞事業収益			2,800,000				2,800,000
その他表彰事業収益			0				0
【寄付金収益】							6,700,000
受取寄付金		1,100,000	5,600,000				6,700,000
【雑収益】							3,439,750
受取利息						9,750	9,750
雑収益						100,000	100,000
懇親会参加料収益						3,330,000	3,330,000
経常費用計	46,382,701	53,979,458	16,369,777	0	5,212,465	16,559,400	138,503,800
【事業費】							27,210,215
編集出版事業費							11,780,000
印刷製本費	11,780,000						11,780,000
用紙費	4,067,000						4,067,000
原稿料・校正費	1,070,000						1,070,000
編集費	1,036,215						1,036,215
送達費	8,075,000						8,075,000
別冊作成費	300,000						300,000
電子出版費	882,000						882,000
雑支出	0						0
研究会事業費							29,765,073
シンポジウム費		18,329,200					18,329,200
講習会費		5,410,200					5,410,200
懇談会費		3,372,673					3,372,673
見学会事業費		250,000					250,000
国際視察団事業費					2,150,000		2,150,000
ゆうごう会事業費					122,000		122,000
研究会会議費		131,000					131,000
表彰事業費							10,807,637
研究企画賞費					103,400		103,400
企業賞費用			2,407,250				2,407,250
表彰事業費			2,696,987				2,696,987
国際賞費用			4,000,000				4,000,000
Mukaiyama Award費用			1,600,000				1,600,000
給料手当	10,703,441	12,236,000	3,059,000		1,532,559		27,531,000
アルバイト費	933,120	1,066,560	266,640		133,680		2,400,000
退職給付費用	804,770	920,000	230,000		115,230		2,070,000
その他人件費（福利厚生費）	2,258,605	2,582,000	645,500		323,396		5,809,500
会議費	300,000	450,000	100,000		50,000		900,000
旅費交通費	588,000	882,000	196,000		98,000		1,764,000
通信費	354,000	531,000	118,000		59,000		1,062,000
什器備品費	50,100	75,150	16,700		8,350		150,300
事務用品・リース費	570,000	855,000	190,000		95,000		1,710,000
水道光熱費	87,000	130,500	29,000		14,500		261,000
事務所賃借料	1,310,100	1,965,150	436,700		218,350		3,930,300
雑費（税・手数料・会費・IT）	1,213,350	1,820,025	378,000		189,000		3,600,375
寄付金							335,000
事務委託費		2,638,000					2,638,000
事業費用計	46,382,701	53,979,458	16,369,777	0	5,212,465	0	121,944,400

表8・3 平成28年度修正正味財産増減予算書内訳表(2/2)

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

正味財産増減予算書内訳 科目	公益目的事業会計				収益事業等会計	F	G
	公1 編集出版	公2 研究会事業	公3 表彰事業	公益事業共通	他1 会員限定事業	法人会計	合計
79 【管理費】							
80 給料手当						3,059,000	3,059,000
81 退職給付費用						230,000	230,000
82 その他人件費（福利厚生費）						645,500	645,500
83 会議費						810,000	810,000
84 旅費交通費						2,031,000	2,031,000
85 通信費						284,000	284,000
86 什器備品費						16,700	16,700
87 事務用品・リース費						190,000	190,000
88 水道光熱費						29,000	29,000
89 事務所賃借料						436,700	436,700
90 諸謝金						1,100,000	1,100,000
91 懇親会費						6,385,000	6,385,000
92 雑費（税・手数料・会費・IT）						1,342,500	1,342,500
93 管理費計						16,559,400	16,559,400
94 評価損等調整前当期経常増減額	▲ 30,876,951	▲ 20,989,458	▲ 7,149,277	56,466,435	7,316	461,385	▲ 2,080,550
95 当期経常増減額	▲ 30,876,951	▲ 20,989,458	▲ 7,149,277	56,466,435	7,316	461,385	▲ 2,080,550
96 2. 経常外増減の部							
97 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
98 計上外費用	0	0	0	0	0	0	0
99 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
100 3. 一般正味財産増減額							
101 一般正味財産期首残高							297,992,840
102 一般正味財産期末残高							295,912,290
103 当期一般正味財産増減額							▲ 2,080,550
104 I I 指定正味財産増減の部							
105 【特定資産運用益】 野依賞基金							
106 特定資産受取利息			1,200				1,200
107 受取寄付金			4,000,000				4,000,000
108 一般正味財産への振替額			▲ 4,000,000				▲ 4,000,000
109 当期指定正味財産増減額			1,200				1,200
110 指定正味財産期首残高			3,512,648				3,512,648
111 指定正味財産期末残高			3,513,848				3,513,848
112 【特定資産運用益】 Mukaiyama Award基金							
113 特定資産受取利息			2,800				2,800
114 受取寄付金			0				0
115 一般正味財産への振替額			▲ 1,600,000				▲ 1,600,000
116 当期指定正味財産増減額			▲ 1,597,200				▲ 1,597,200
117 指定正味財産期首残高			13,655,048				13,655,048
118 指定正味財産期末残高			12,057,848				12,057,848
119 I I I 正味財産期末残高							
120 正味財産期末残高							311,483,986

理事会分科会での事業見直し検討について

本会にとって、会員数の増強が最も重要な課題である。

平成27年度は6名の理事が研究会の新企画について検討し、これに基づいて28年度に共益事業「技術アドバイズ制度」を発足する予定。28年度は以下二つの分科会で研究会と表彰制度の改革を検討する。

第一分科会(研究会事業改革)；第二分科会(表彰制度の見直し)

各分科会とも構成員は理事7名と事務局1名；委員会の開催予定：4・6・9・12・H29.1月

報告4 永年会員昇格者

会員規程第4条により、満75歳で20年連続在籍者を28年度より永年会員とする(入会順；敬称略)。

宮野壮太郎 伊藤健兒 山田隆己 今木直 森幸雄 遠藤剛 野村正勝  
 木村修 干鯛眞信 奥山格 楠本正一 首藤紘一 平井功一 森山祥彦  
 近藤寿 児玉三明 高村則夫 城田靖彦 岡本佳男 相見則郎 以上20名

その他 事案があれば拳手の上ご報告ください。

以上

